ARK NAVIS

2026 オペレーションマニュアル



株式会社 コンピュータシステム研究所

Vol.202511_000

Contents

「点」・「線分」に付与した属性の一覧表示について 3
Ⅰ. 属性確認機能の目的・概要 5
２. 運用フロー 6
２.1. Ark-Navis で属性情報の修正を行なわない場合のフロー 6
3. 起動方法、初期画面 7
4. 属性情報の読込 8
4.1. 図面からの読込 8
4.2. 確認ファイルがある場合の読込 9
５. 属性確認機能の説明・操作方法 10
5.1.属性種別の切り換え 10
5.2.表示順の変更 11
5.3.列幅の変更、自動調整 12
5.4.オブジェクトの確認 13
5.5.リスト確認 14
5.5.2.ブロックのオブジェクト確認 15
5.7.確認ファイルへの出力 19
5.8.属性情報の読み込み(確認ファイルからの読み込み) 20
5.9.外部参照ファイルの確認 21
5.10.フォルダーの表示 22
6. 見える化機能の説明・操作方法 23
6.1.関連ボタン配置 23
6.2.カラーインデックス作成 24
1) カラーインデックス作成画面 24
2) インデックスファイル、保管場所 25
3) インデックス化のルール 26
4) 数値のインデックス化方法について 27
5) カラーインデックスファイル作成例（均等分割） 27
6) インデックスファイルの確認 28
7) 分析および表示 29
8) 表示復帰 29

7．確認ファイル，カラーインデックスファイルのフォルダー構成 30
8．セルの色について 31
9．選択オブジェクトの属性表示機能 32
10．属性確認画面複数化 33
11．選択オブジェクトの属性確認画面複数化 33
12．ハイパーリンクデータの生成 34
12.1．ハイパーリンク生成、確認・削除の前に 34
12.2．ハイパーリンク生成機能 35
12.3．ハイパーリンクの確認・解除 40
13．TimeLiner データ生成 41
13.1．TimeLiner データ生成、確認・削除の前に 41
13.2．TimeLiner データ生成機能 42
1) TimeLiner データの生成 42
2) TimeLiner データの作成条件 42
3) 生成結果 43
13.3．TimeLiner データの確認・削除機能 44
14．属性情報の修正と確認ファイル 45
14.1．運用フロー 45
14.2．属性修正機能 46
14.3．修正内容の確認ファイルへの保管 51

「点」・「線分」に付与した属性の一覧表示について

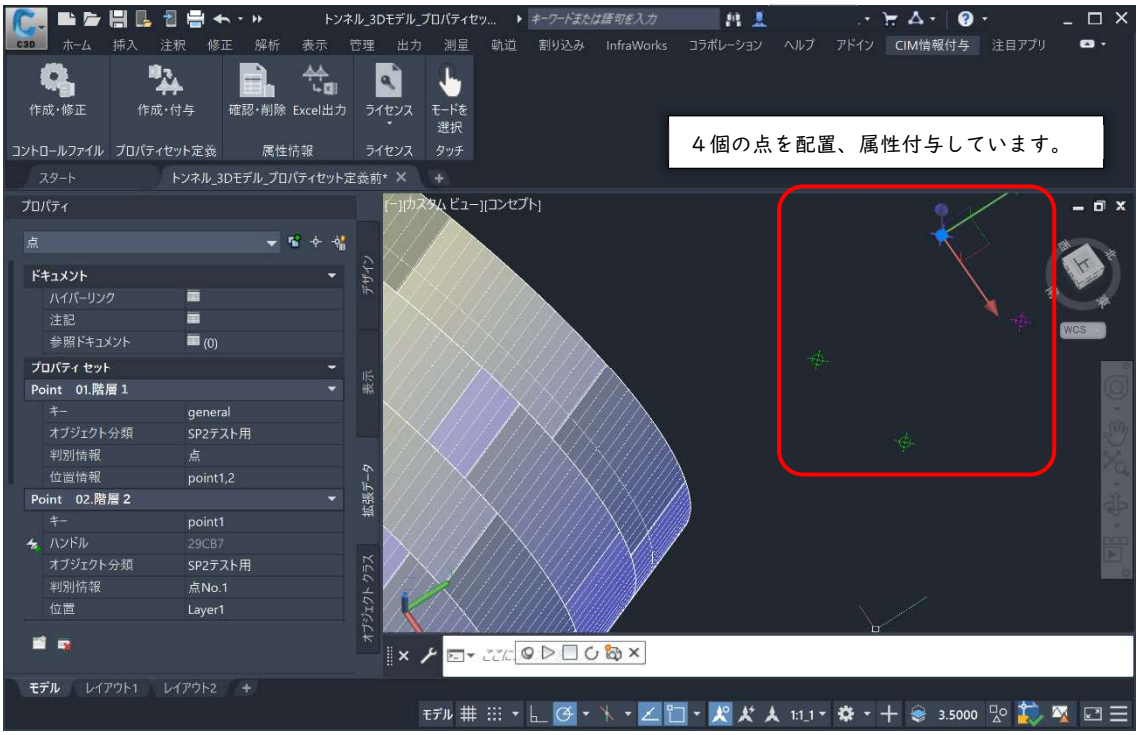
2023_SP2 版以降から「点」にも属性付与できるようになりましたが、Ark-Navis での属性一覧表示には制限があります。

以下の属性付与例の画面ショット、説明をご確認ください。

※「点」で説明していますが「線分」も同様です。

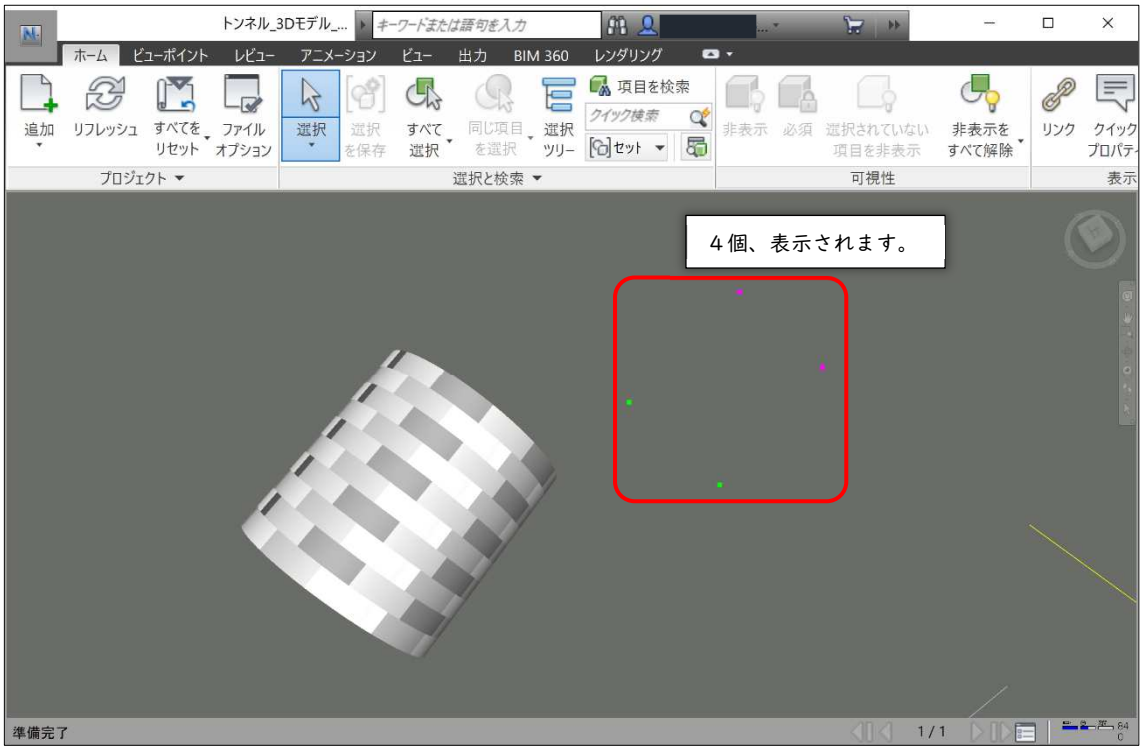
① Civil 3D での属性付与状態

Layer1（マゼンタ）、Layer2（緑）に各２個、合計４個の点を配置、属性を付与しています。



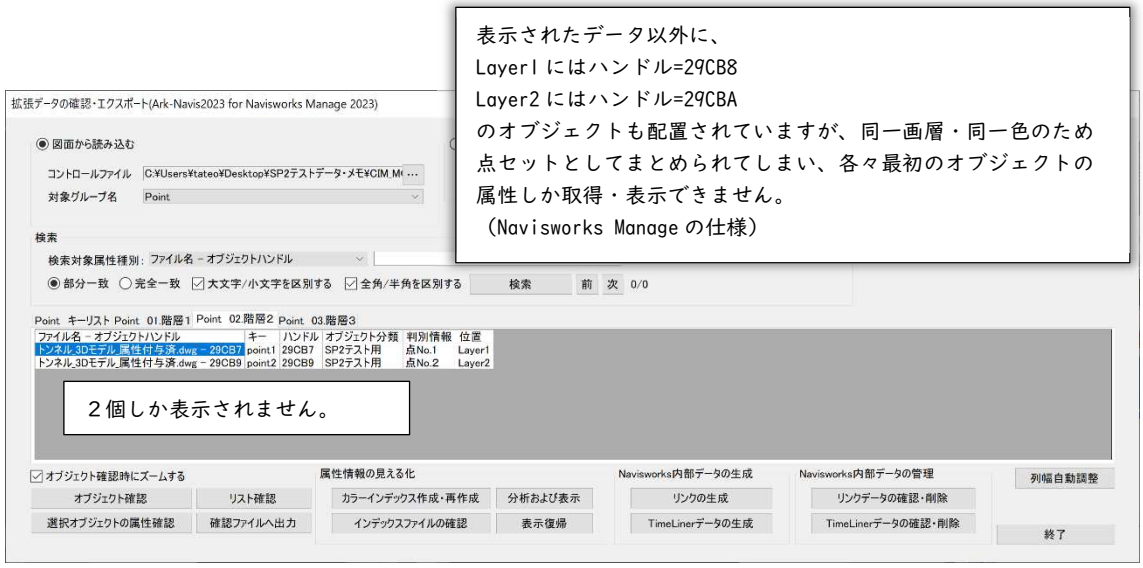
② Navisworks Manage での表示状態

下図のように表示されます。



属性情報の一覧表示を行なうと下図のようになります。

Navisworks Manage では点は同じ画層だと色を変えない限り、点セットとして扱う仕様のため、オブジェクトは４個ありますが同一画層・同一色はまとめられてしまい、２個のオブジェクトのみ取得・表示されます。



表示されたデータ以外に、
Layer1 にはハンドル=29CB8
Layer2 にはハンドル=29CBA
のオブジェクトも配置されていますが、同一画層・同一色のため点セットとしてまとめられてしまい、各々最初のオブジェクトの属性しか取得・表示できません。
（Navisworks Manage の仕様）

線分も同様に線セットとしてまとめられてしまいます。

Ⅰ．属性確認機能の目的・概要

別紙に示す Autodesk　Civil3D のカスタムコマンドで構造物モデルに属性を付与することはできるようになりましたが、付与された属性を確認する機能が Navisworks の標準機能では十分ではありません。

Navisworks Manage に専用のコマンドを作り、属性確認をわかりやすくし、また、属性情報の可視化を行ないます。

属性の追加・修正も Civil3D に戻ることなく行うことが可能です。（DWG には反映されないので、運用上の注意が必要です）

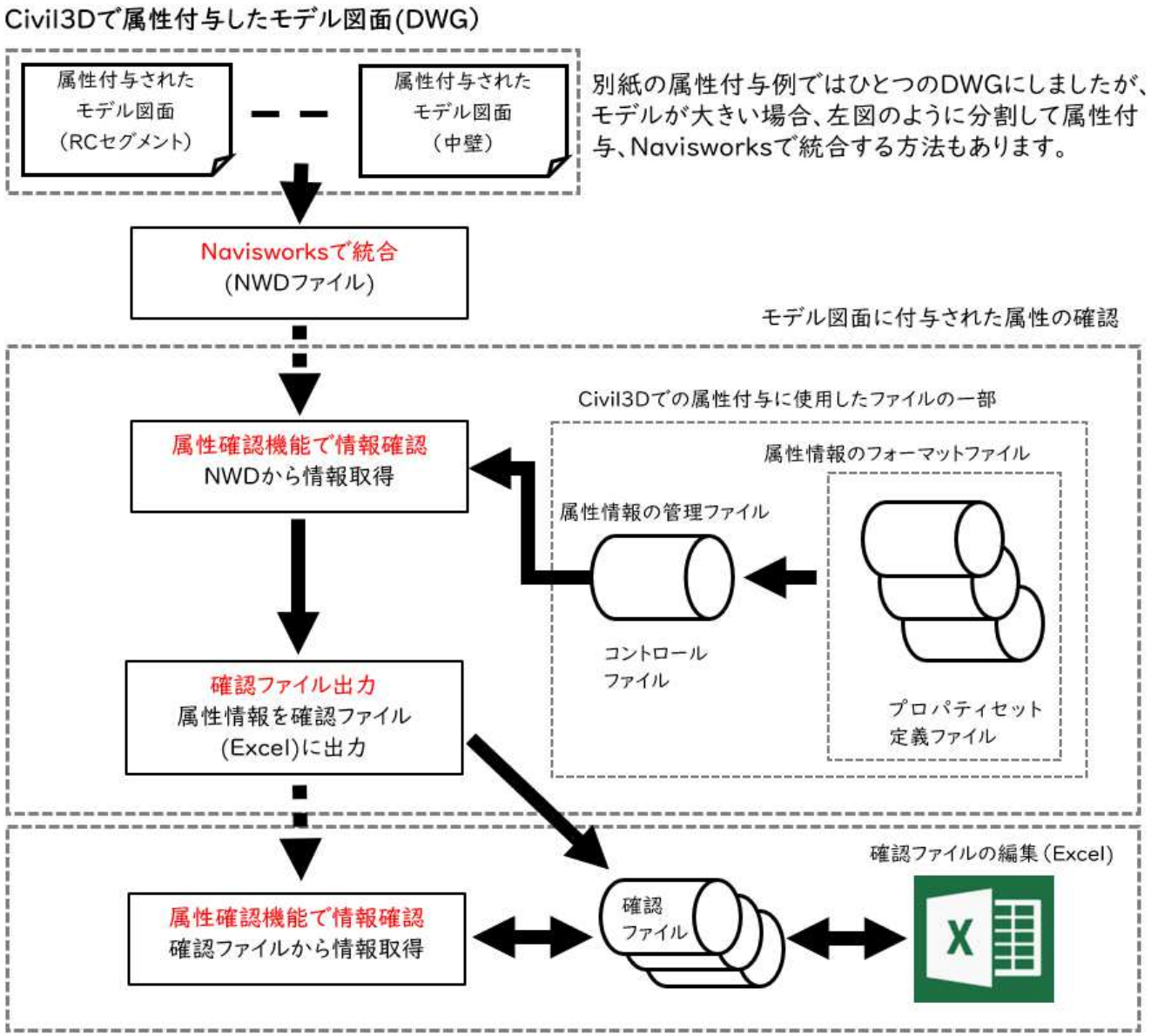
2．運用フロー

2.1．Ark-Navis で属性情報の修正を行なわない場合のフロー

ARK NAVIS で属性情報の修正を行なわない場合のフローです。

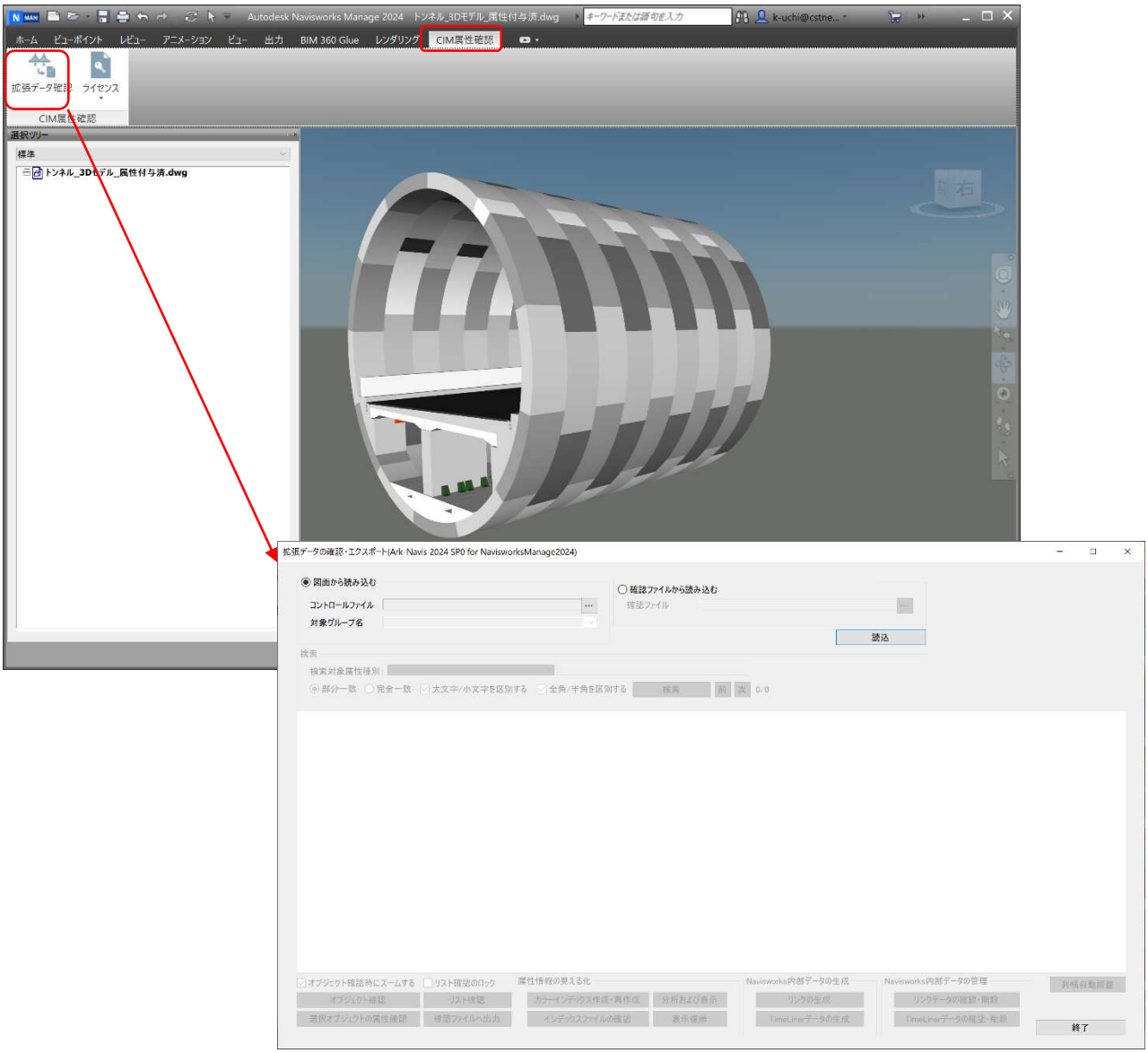
（確認ファイルを Excel で手修正する場合は含みます）

Ark-Navis で属性情報の修正を行なう場合のフローについては１４．１項を参照お願いいたします。



3. 起動方法、初期画面

対象の dwg ファイルを読み込み後、「CIM 属性確認」を選択、「拡張データ確認」ボタンを押下します。

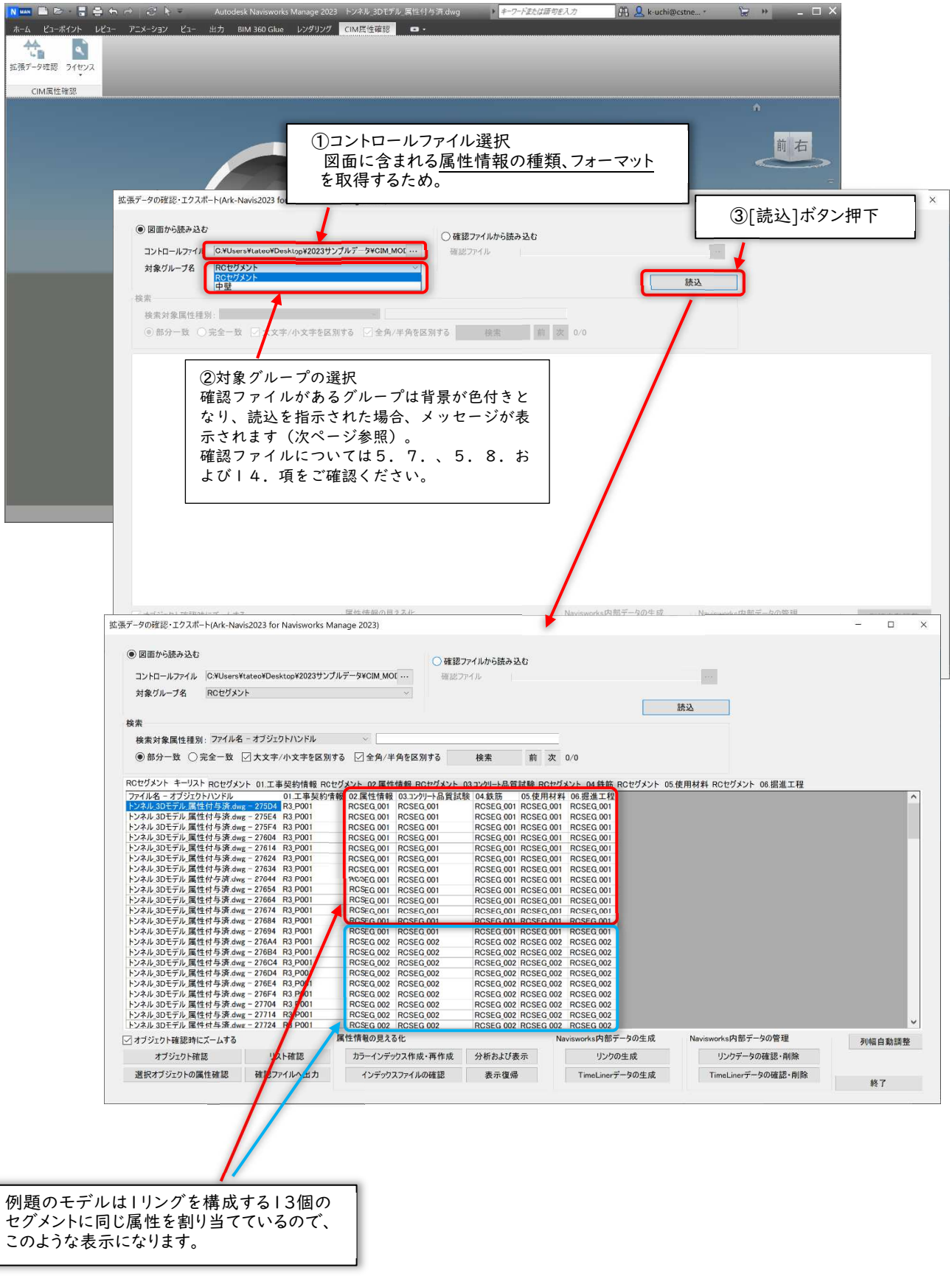


注）一度読み込み完了して NWD で保管した場合は NWD ファイルを開いても構いません。

4. 属性情報の読込

4.1. 図面からの読込

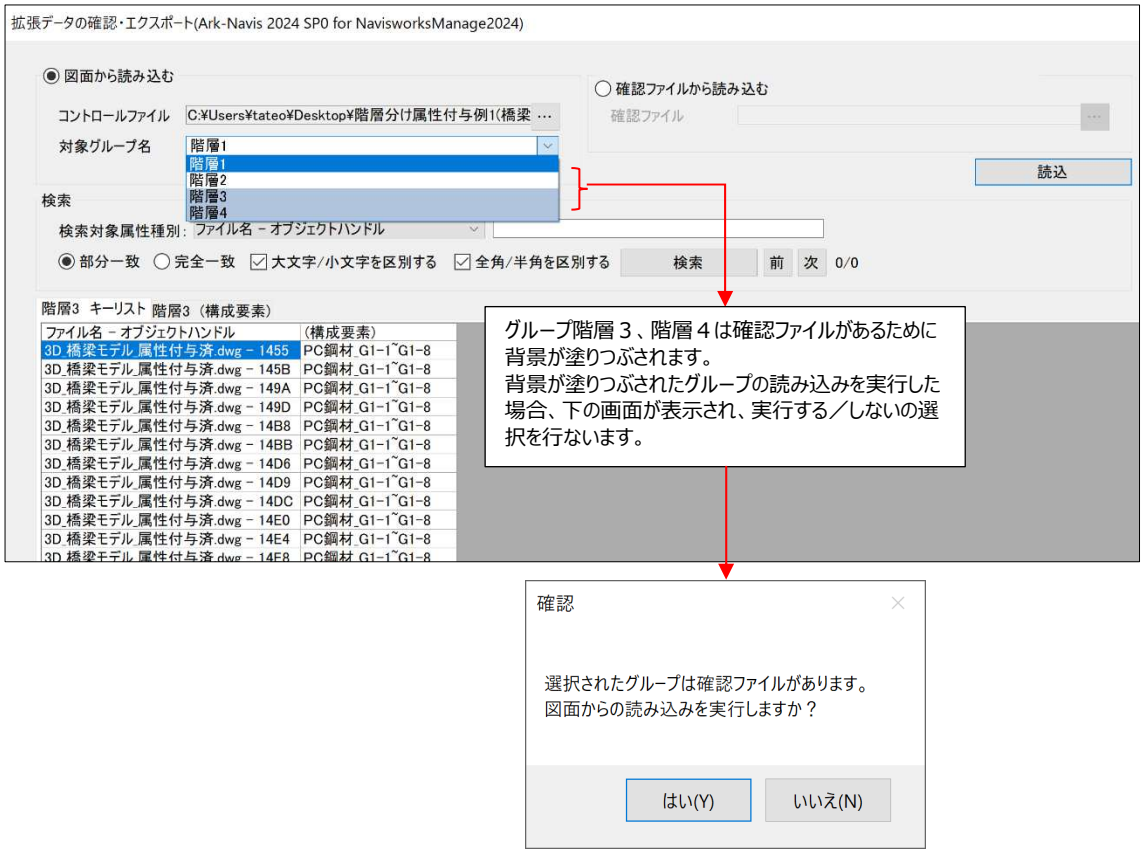
図面（トンネル_3D モデル属性付与済.dwg）から属性情報を取得、表示します。



4.2.　確認ファイルがある場合の読込

確認ファイルがある場合の読み込み実行時は、以下の表示、処理になります。

下図は前ページの図面（トンネル_3D モデル属性付与済.dwg）の例ではありませんのでご注意ください。

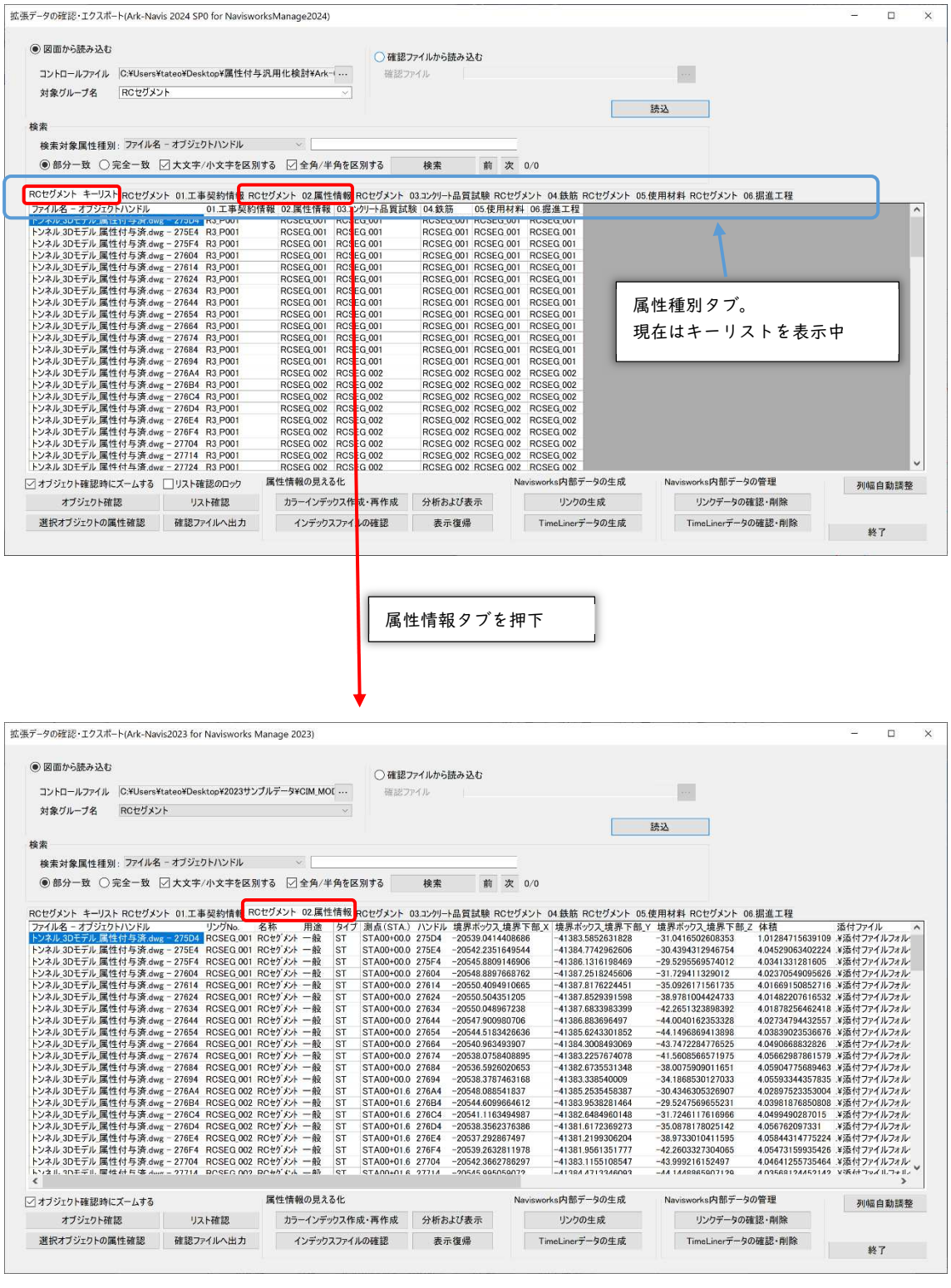


確認ファイルがあるかどうかのチェックはコントロールファイル読み込み時に行われます。
したがって、コントロールファイル読み込み後に確認ファイルが作成されたグループはチェックが行われないのでご注意ください。
確認ファイルの最新状態を表示するためにはコントロールファイルを読み直してください。

5．属性確認機能の説明・操作方法

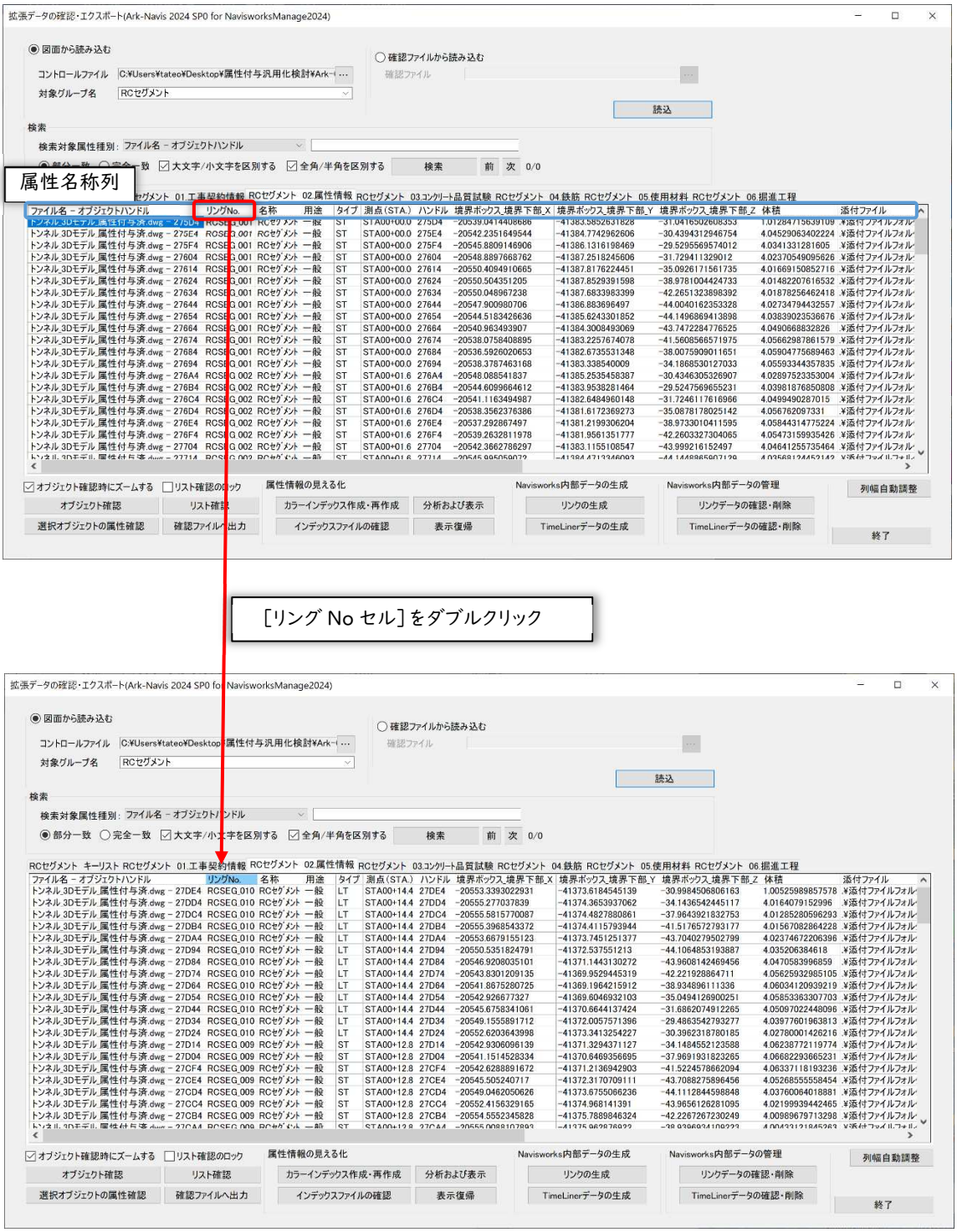
5.1.属性種別の切り換え

表示したい属性種別のタブを押下します。



5.2. 表示順の変更

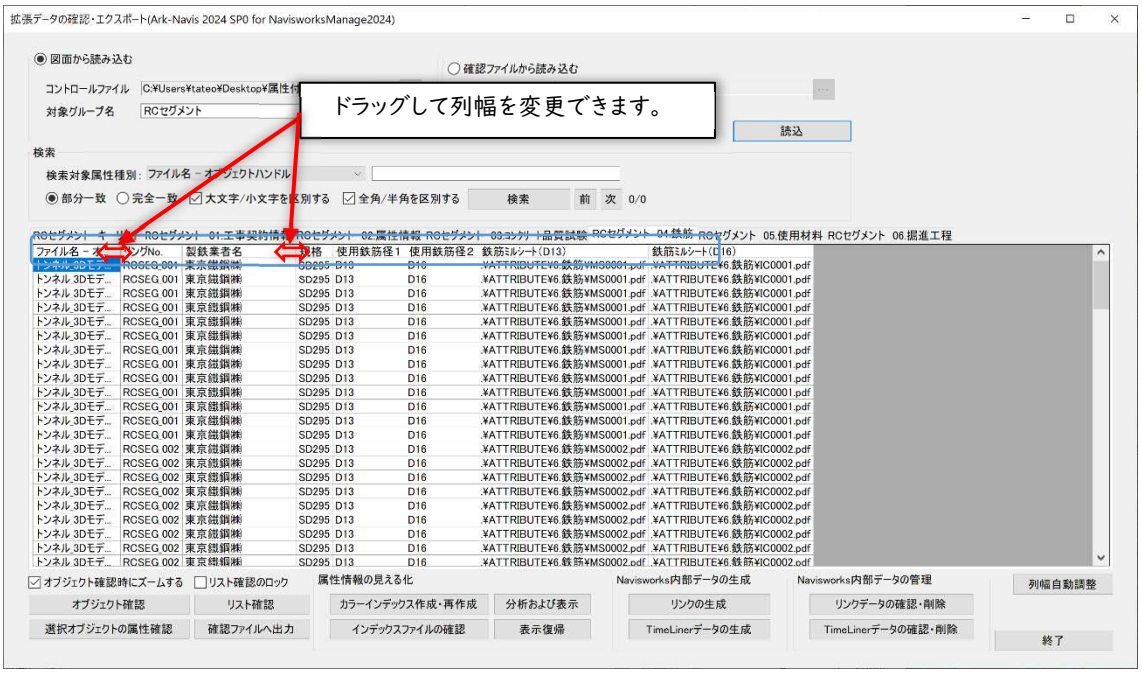
属性名称列をダブルクリックすると属性名称でソートし、再表示します。

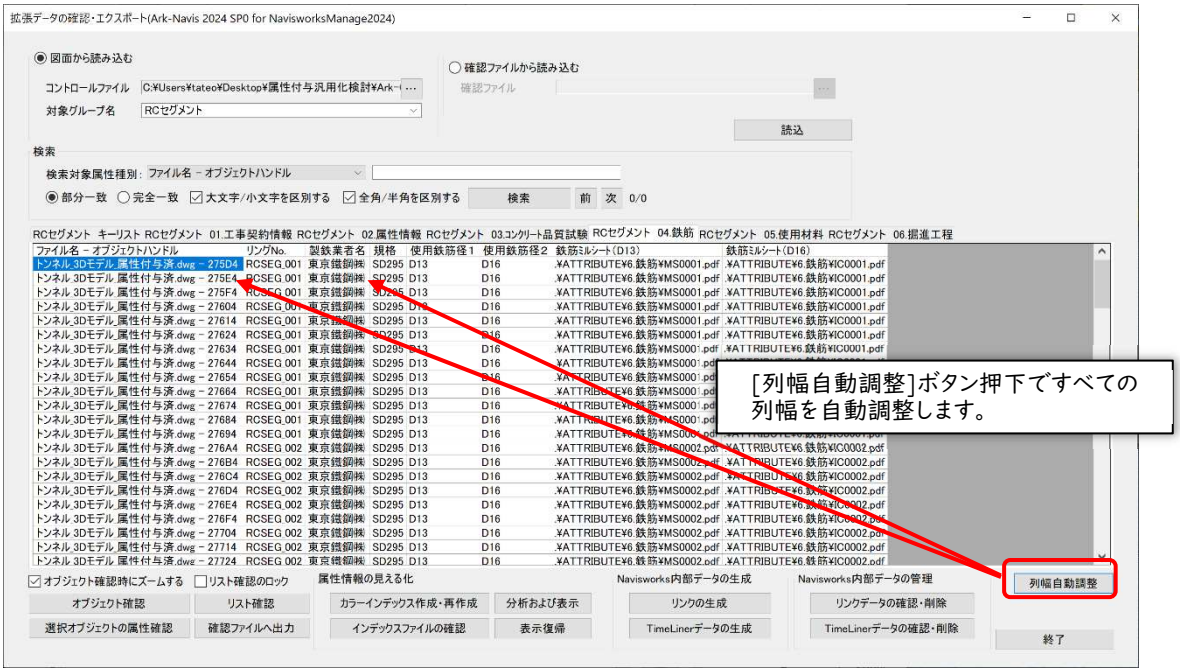


5.3. 列幅の変更、自動調整

属性名称列のセル縦枠線をドラッグして列幅変更ができます。

［列幅自動調整］ボタン押下でフィット表示します。

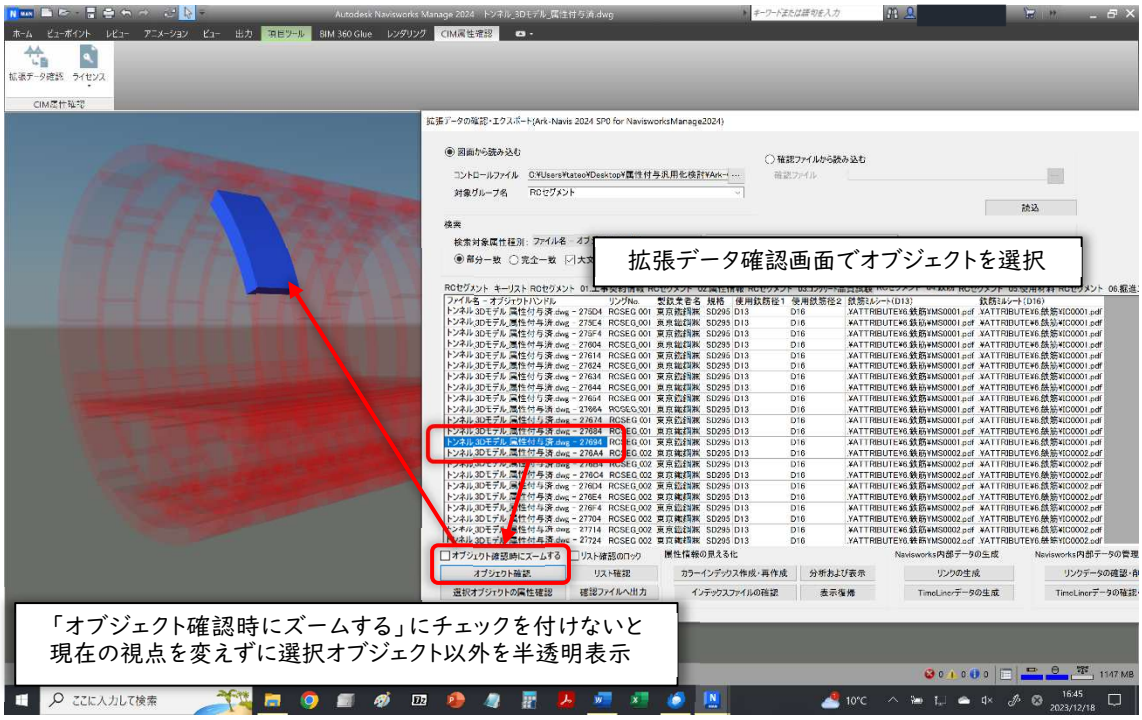


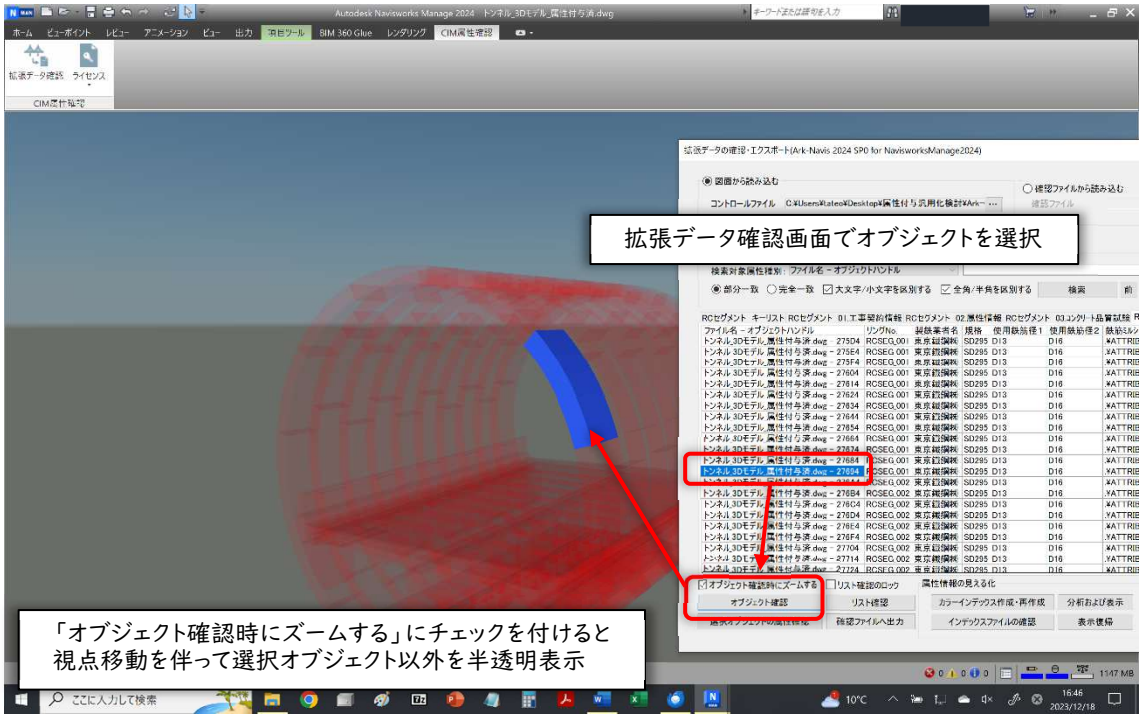


5.4. オブジェクトの確認

拡張データ確認画面で確認したいオブジェクトを選択後（複数選択する場合は Ctrl を押しながら）、［オブジェクト確認］ボタンを押下します。

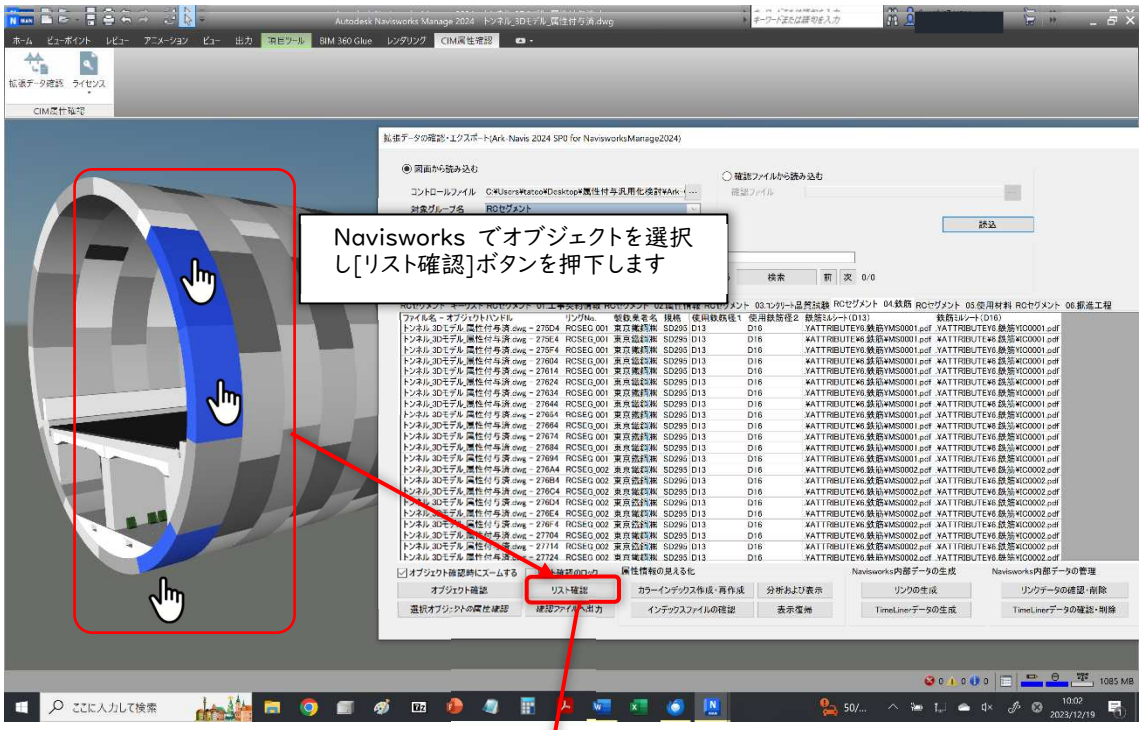
ファイル名－オブジェクトハンドル列以外（例えば「製鉄業者名列」）をクリックしてもファイル名－オブジェクトハンドル列が選択状態になります。

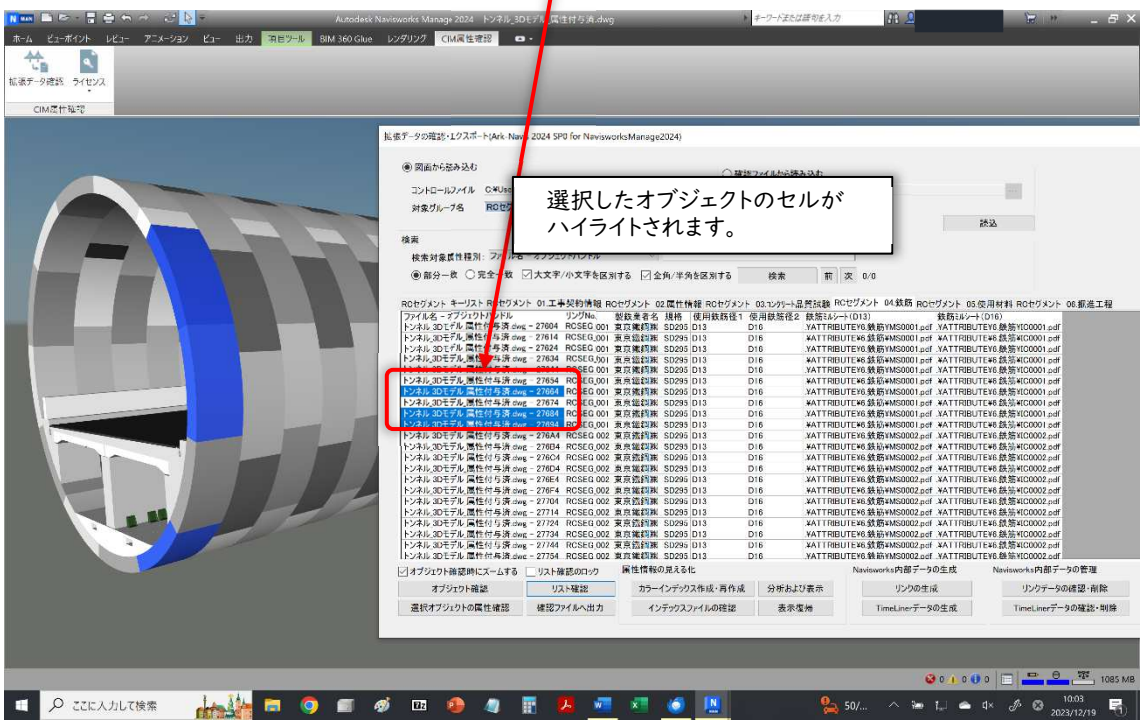




5.5. リスト確認

確認したいオブジェクトを Navisworks 画面で選択後（複数選択する場合は Ctrl を押しながら）、［リスト確認］ボタンを押下すると、拡張データ確認画面で選択されたオブジェクトのセルがハイライトされます。





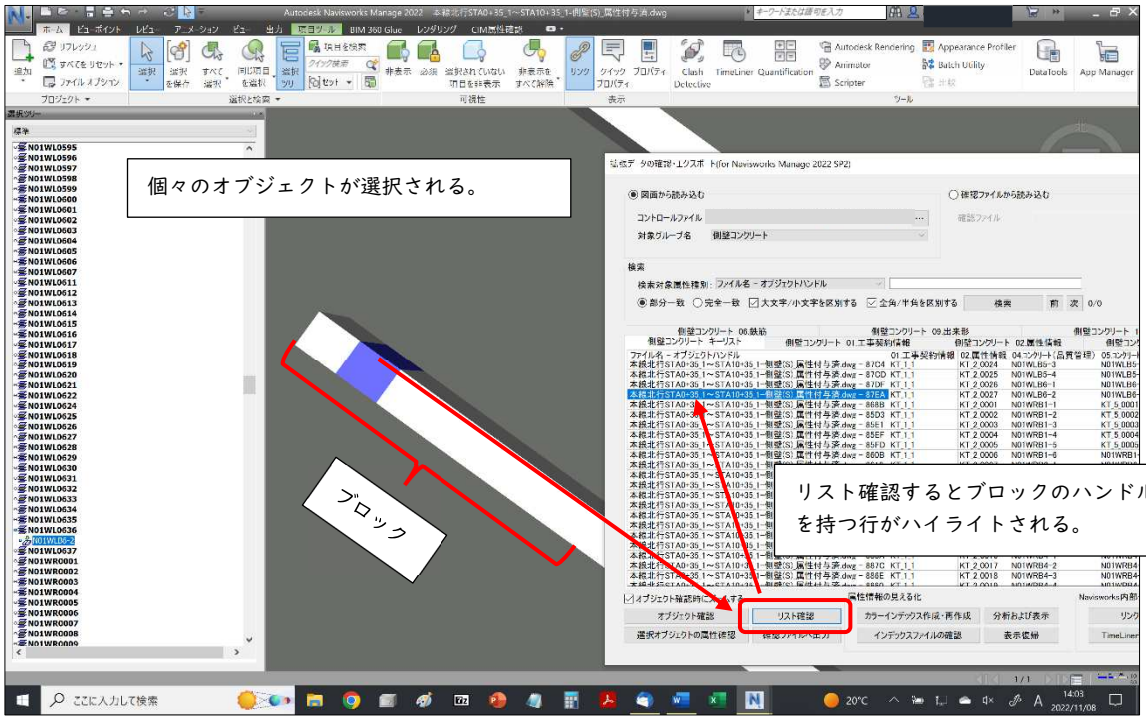
5.5.2. ブロックのオブジェクト確認

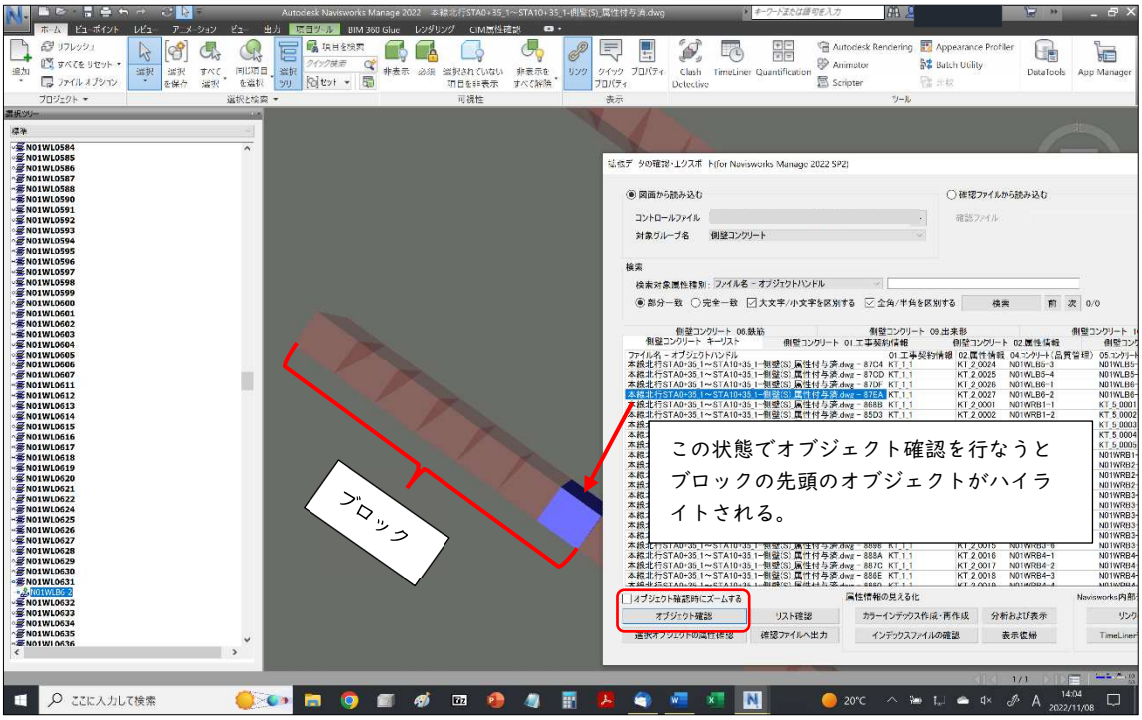
注 1）画層の異なるオブジェクトで構成されたブロックのオブジェクト確認・リスト確認について

Navis では画層の異なるオブジェクトで構成されたブロックの場合、個々のオブジェクトが選択されます。選択レベルには関係ありません。

Ark-Navis のリスト確認・オブジェクト確認を行なうと、前バージョン（SP2）と 2023 以降のバージョンでは、動作に以下のような違いがあります。

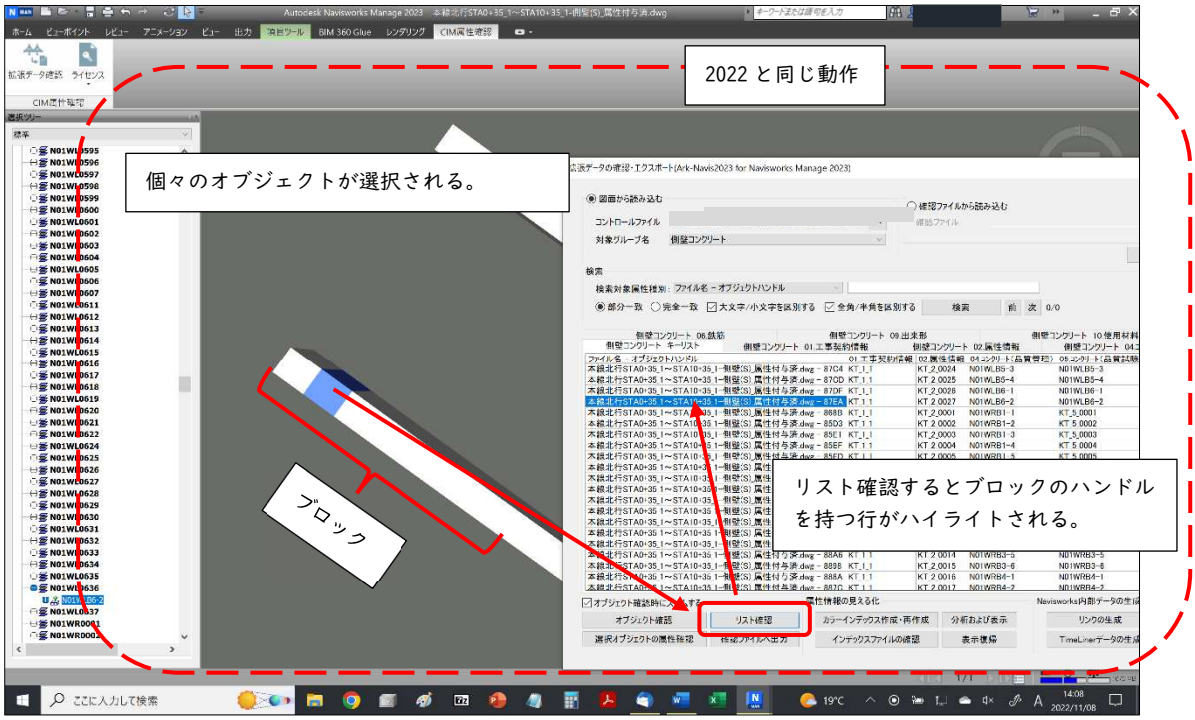
① 2022 までの動作

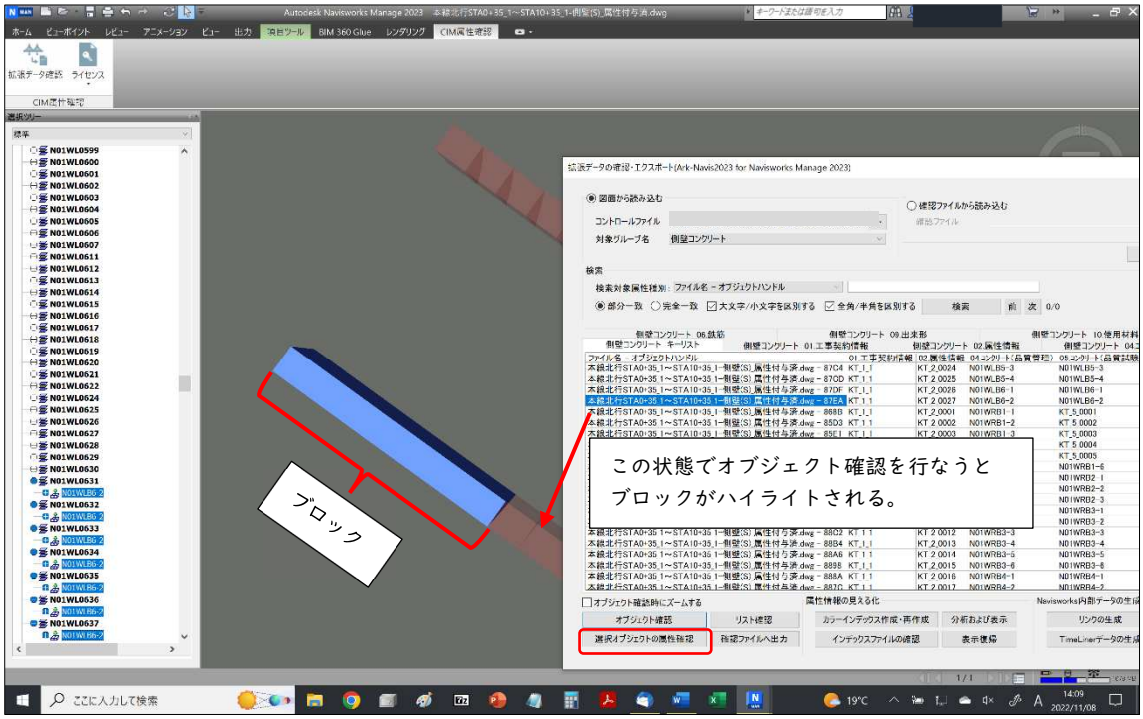




②2023 版以降の動作

2023 版以降ではオブジェクト確認でブロックがハイライトします。





注 2）リスト確認のロック機能

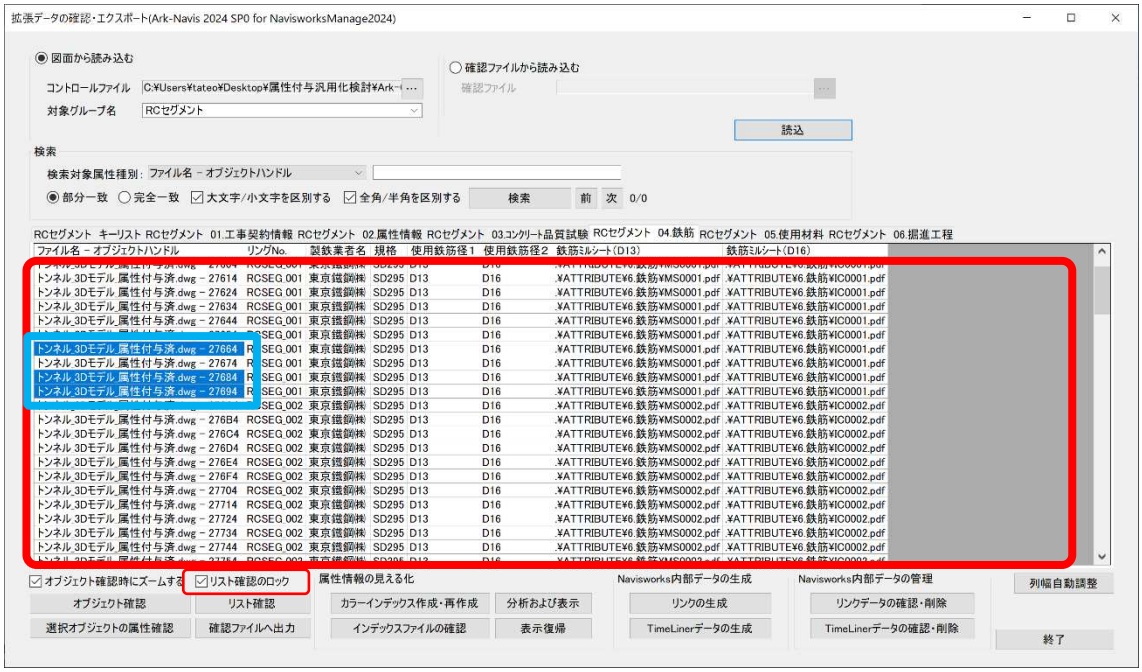
「リスト確認のロック機能」にチェックを付けると Navisworks でのオブジェクト選択状態がリスト確認ボタンを押下しなくても拡張データ表示画面に反映されるようになります（選択ツリー、選択セットによる選択含む）。

同時に拡張データ表示画面でのオブジェクト選択にロックがかかり、

[ ] 内のどのセルをクリックしても

[ ] 内の選択状態は変わりません

の動作になります（下図）。



Ark-Navis での属性修正機能追加に伴い、Navisworks であらかじめ修正（あるいは確認）対象のオブジェクトを選択ツリー、選択セット等で特定しておき、順次修正（あるいは確認）作業を行なうことを想定したものです。

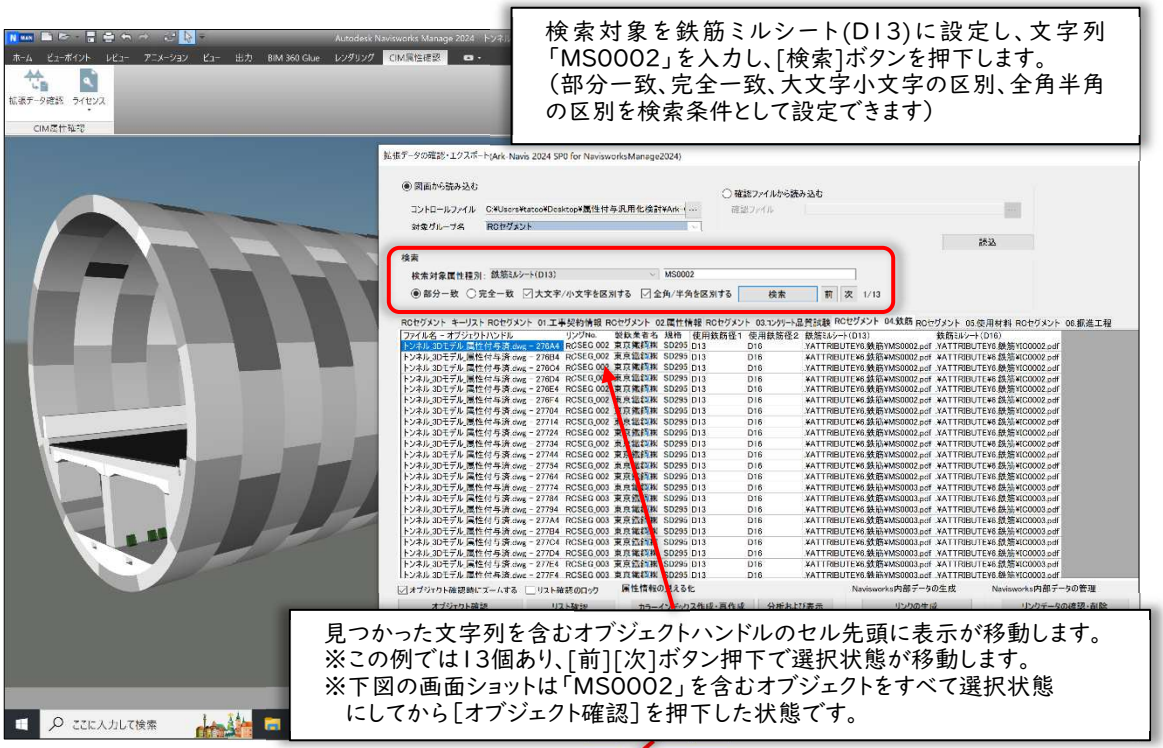
「リスト確認のロック機能」にチェックを付けると拡張データ表示画面でのオブジェクト選択状態は Navisworks の３D 画面での選択状態に切り替わります。

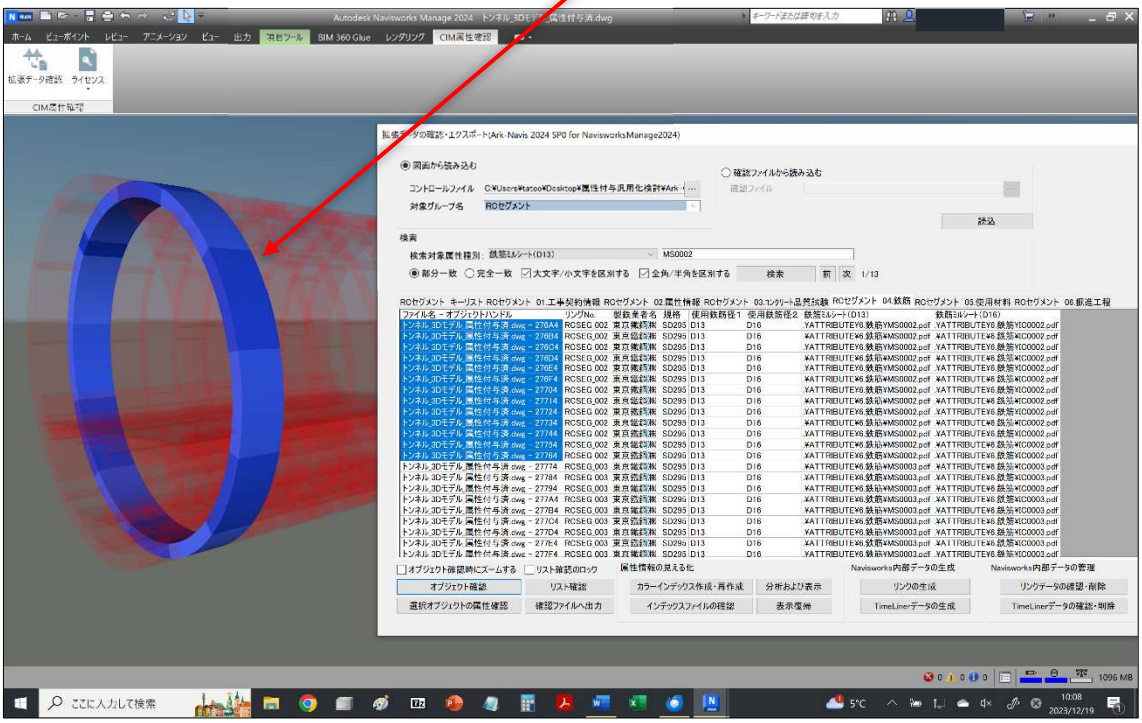
拡張データ表示画面での選択状態のままロックしたい場合、いったん「オブジェクト確認」ボタンを押下して上記画面の選択状態を Navisworks の選択状態

に反映させてからロックにチェックを入れてください。

5.6. 検索機能

検索機能を使用して、目的の情報を素早く確認することができます。

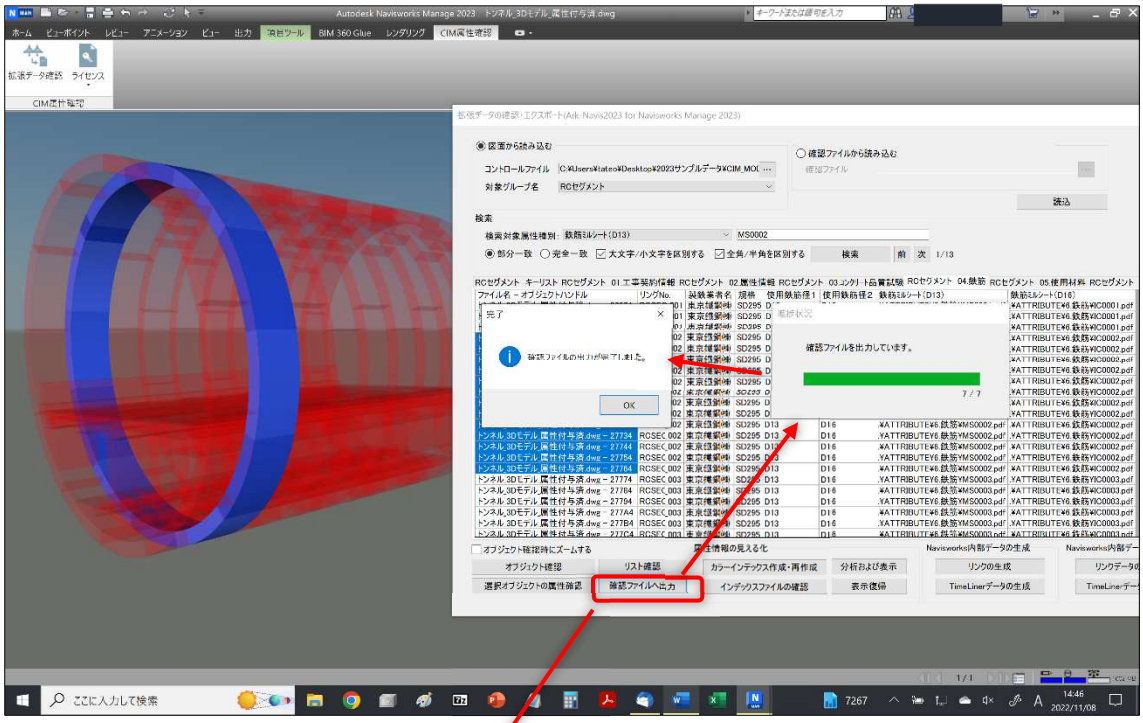


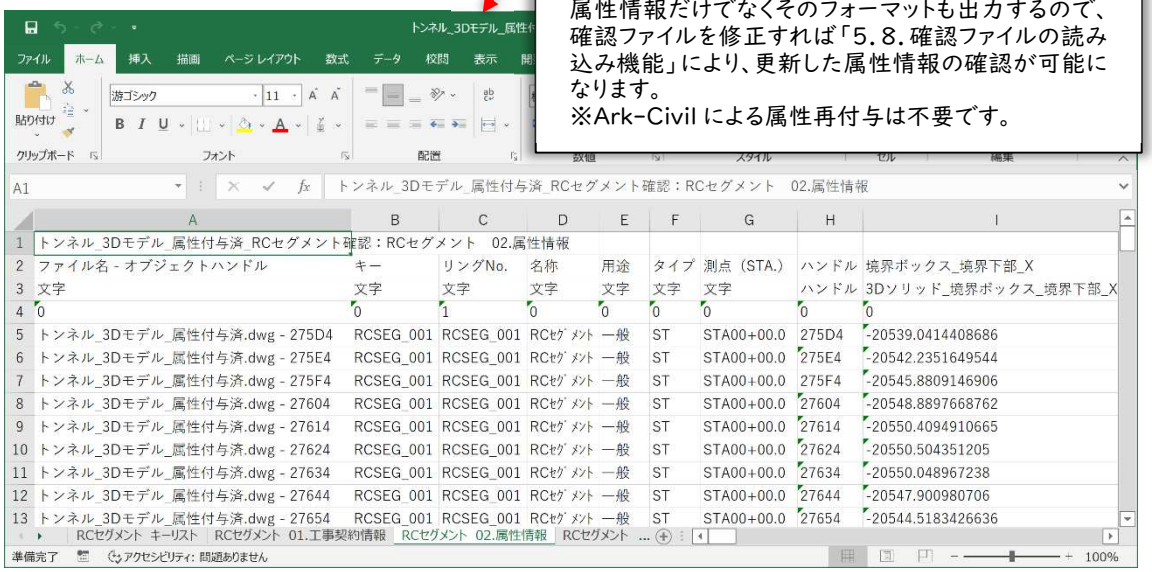


5.7.確認ファイルへの出力

拡張データ確認画面に取り込まれているすべての属性情報を Excel ファイルに出力します。
※ファイル名・出力先は自動で決められます。（5.8. および 7. 項も参照）

属性情報だけでなくコントロールファイルの情報も出力されるので、Excel を編集して再度 Navisworks に取り込むことによって、Civil3D に戻ることなく属性情報の編集が可能です。





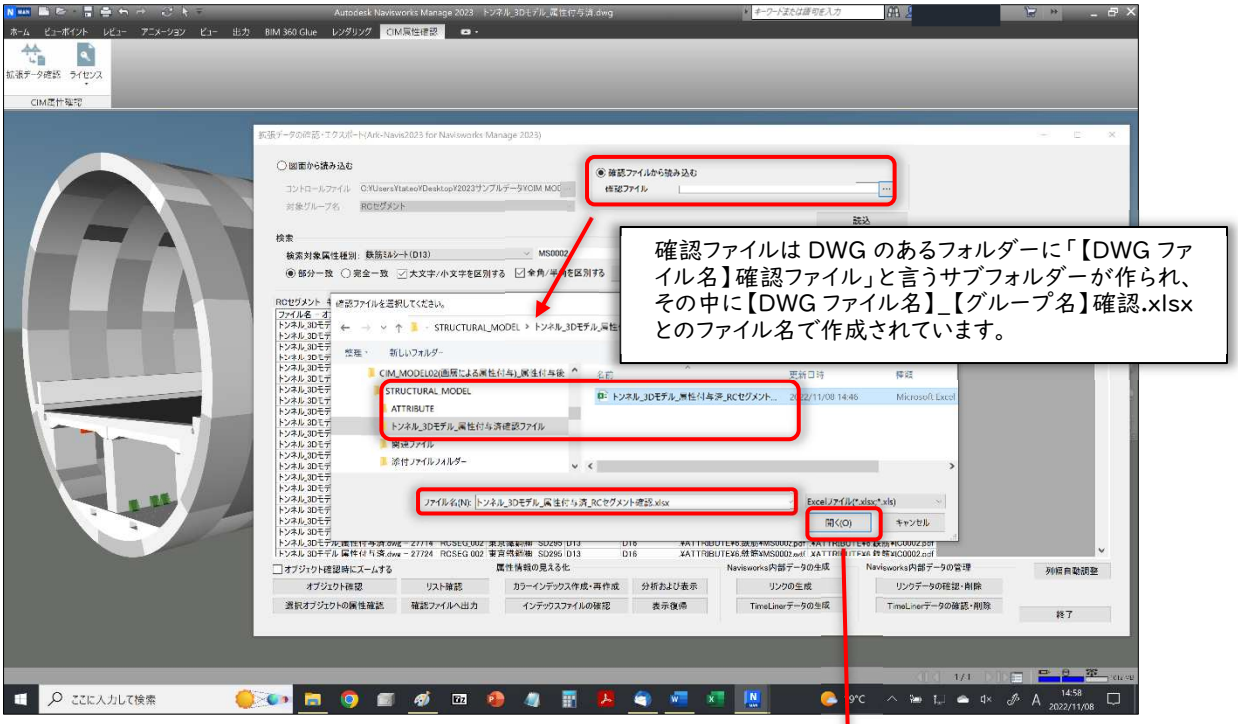
属性情報だけでなくそのフォーマットも出力するので、確認ファイルを修正すれば「5.8.確認ファイルの読み込み機能」により、更新した属性情報の確認が可能になります。
※Ark-Civil による属性再付与は不要です。

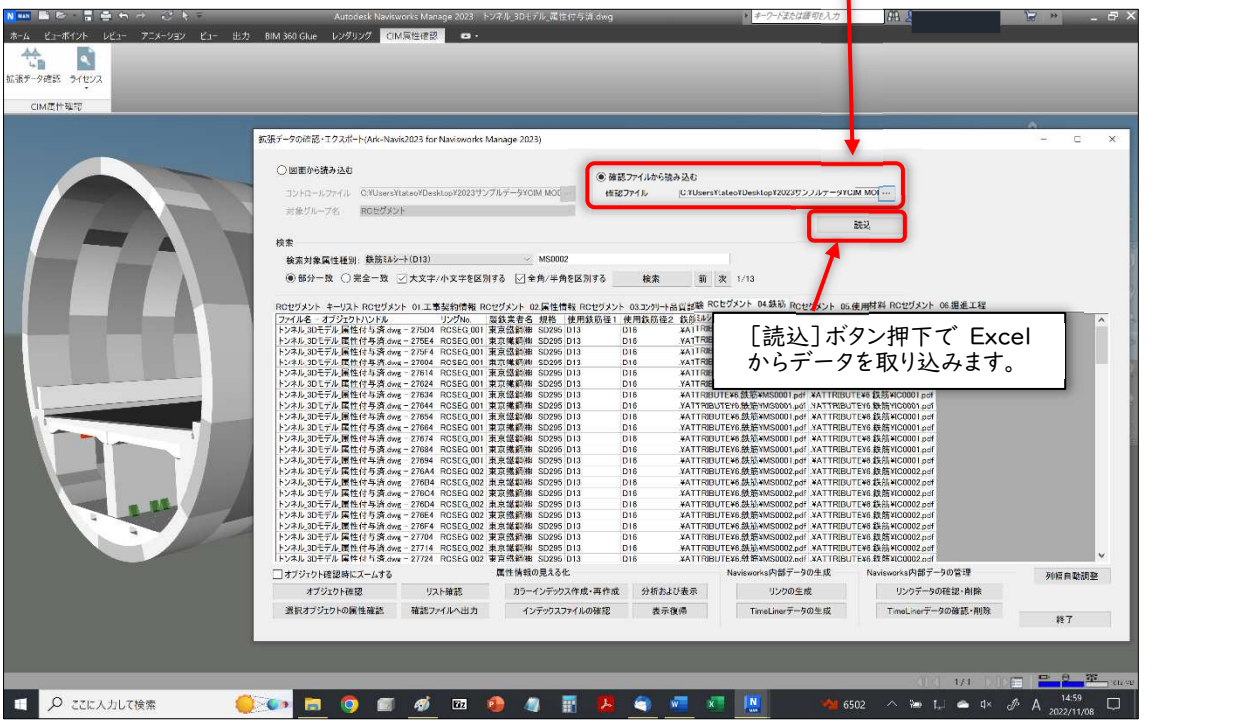
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	トンネル_3Dモデル_属性付与済_RCセグメント確認：RCセグメント　02.属性情報								
2	ファイル名 - オブジェクトハンドル	キー	リングNo.	名称	用途	タイプ	測点（STA.）	ハンドル	境界ボックス_境界下部_X
3	文字	文字	文字	文字	文字	文字	文字	ハンドル	3Dソリッド_境界ボックス_境界下部_X
4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
5	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 275D4	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	275D4	-20539.0414408686
6	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 275E4	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	275E4	-20542.2351649544
7	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 275F4	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	275F4	-20545.8809146906
8	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 27604	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	27604	-20548.8897668762
9	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 27614	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	27614	-20550.4094910665
10	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 27624	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	27624	-20550.504351205
11	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 27634	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	27634	-20550.048967238
12	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 27644	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	27644	-20547.900980706
13	トンネル_3Dモデル_属性付与済.dwg - 27654	RCSEG_001	RCSEG_001	RCセグメント	一般	ST	STA00+00.0	27654	-20544.5183426636

2024_SP0 版では拡張データ表示画面での属性修正が可能になりました。
修正内容は確認ファイルに保管されます（Navisworks Manage では DWG の書き換えができないため）。
この確認ファイルを使って Ark-Civil で DWG に再付与できます。
詳細は１４．項を参照お願いいたします。

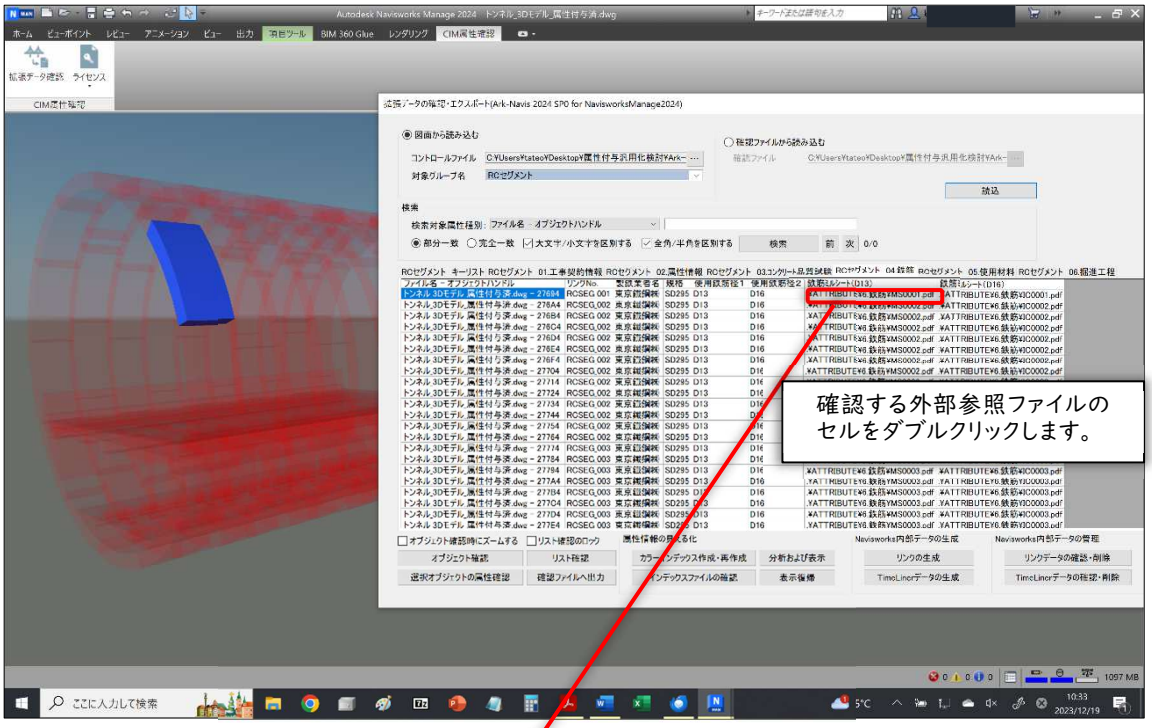
5.8. 属性情報の読み込み(確認ファイルからの読み込み)

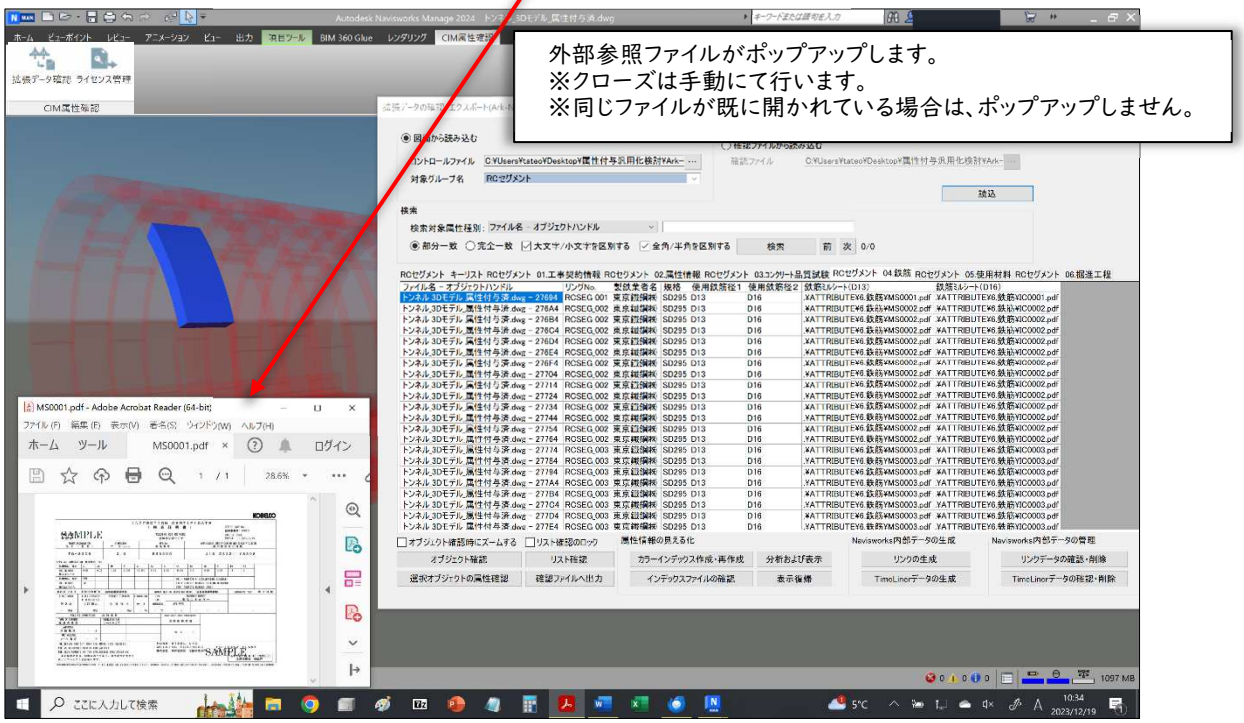
属性情報を図面（NWD ファイル）からではなく前項「5.7.確認ファイルへの出力」で出力した確認ファイル（Excel ファイル）から取得する機能です。





5.9. 外部参照ファイルの確認

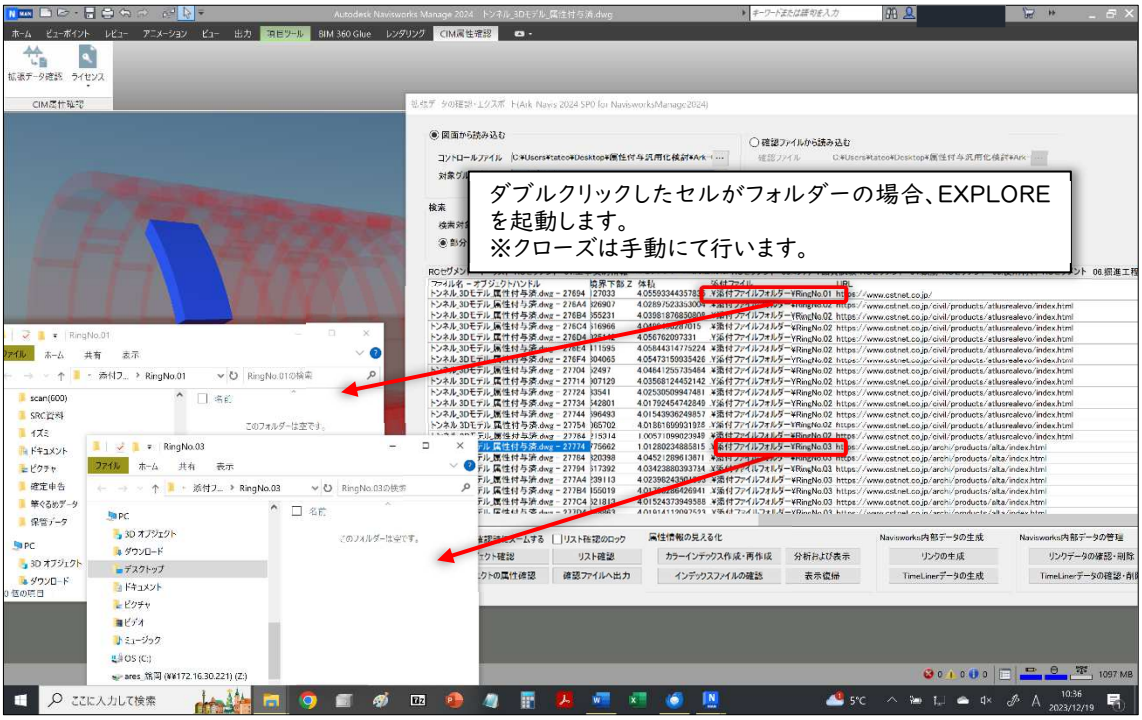




5.10. フォルダーの表示

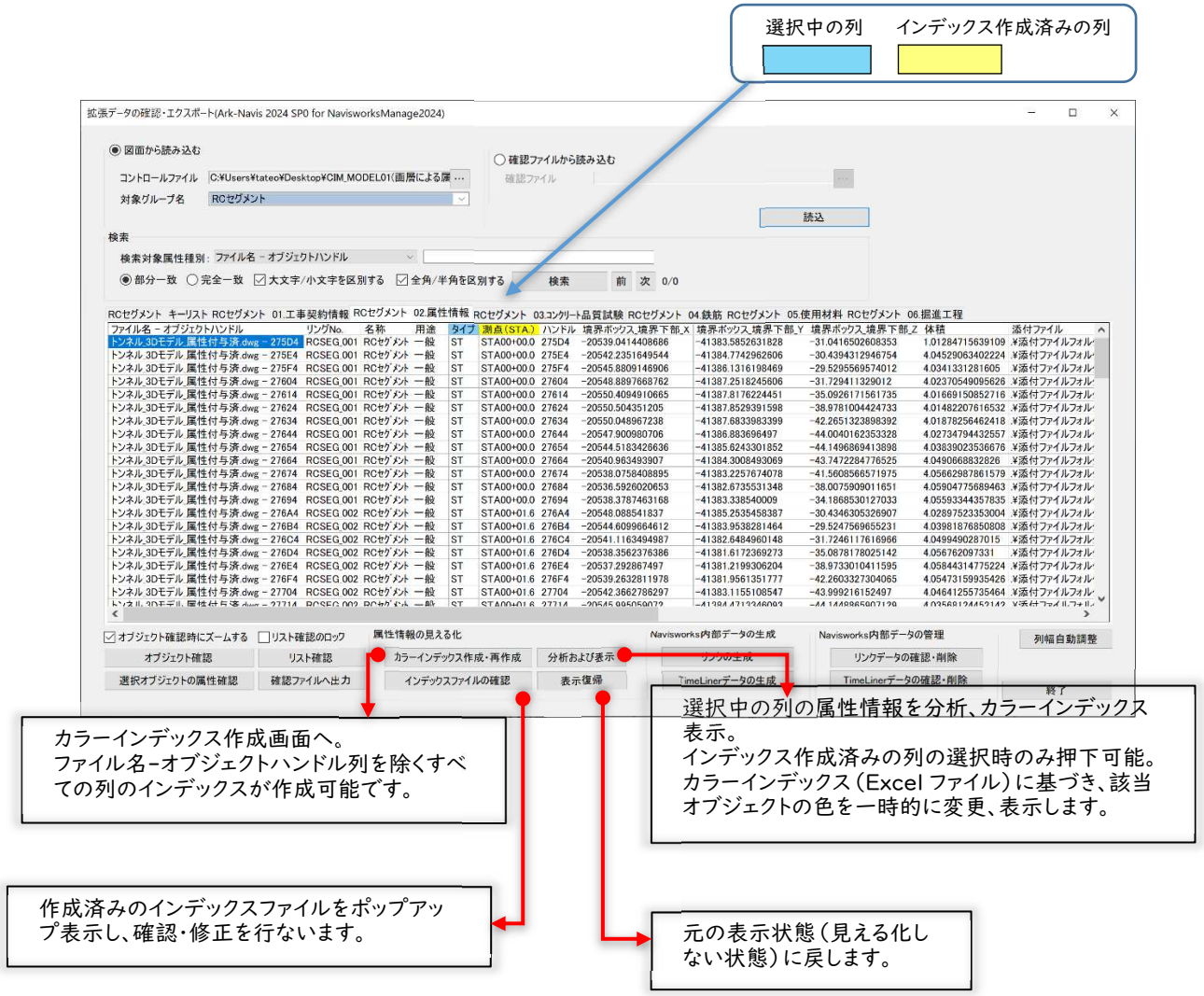
オブジェクトに関連付けられたフォルダーを開くことができます。

※数が可変あるいは固定化できないため外部参照ファイルとして取り扱えないファイルの保管先として使います。



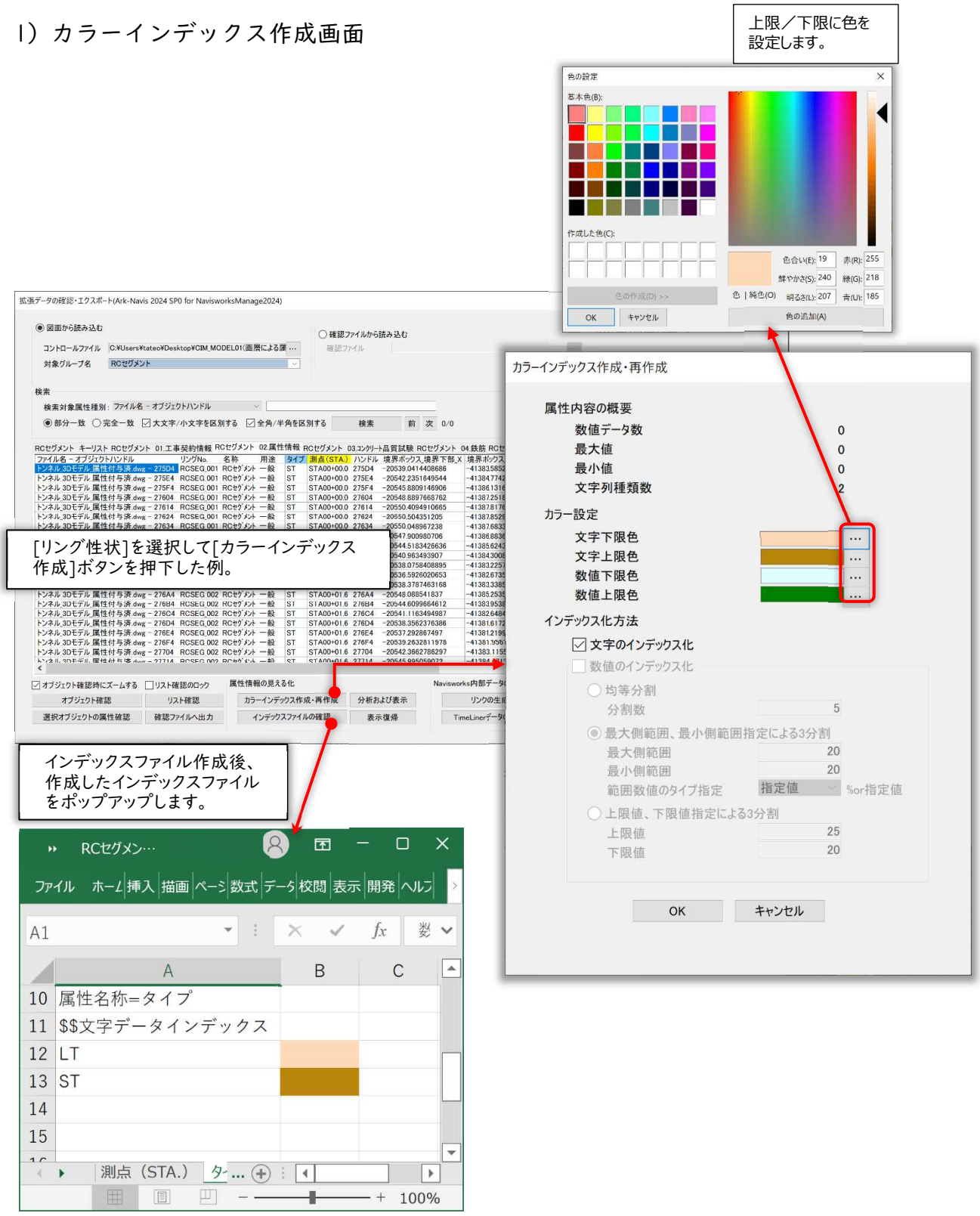
6. 見える化機能の説明・操作方法

6.1. 関連ボタン配置



6.2. カラーインデックス作成

1）カラーインデックス作成画面



※選択した列が数値でも文字でも、それらが混在してもインデックス化出来ます。

※タイプの場合、２種類の文字データしかないため上図の状態になります。

2）インデックスファイル、保管場所

開いている図面に対応した Excel ファイルを作成します。

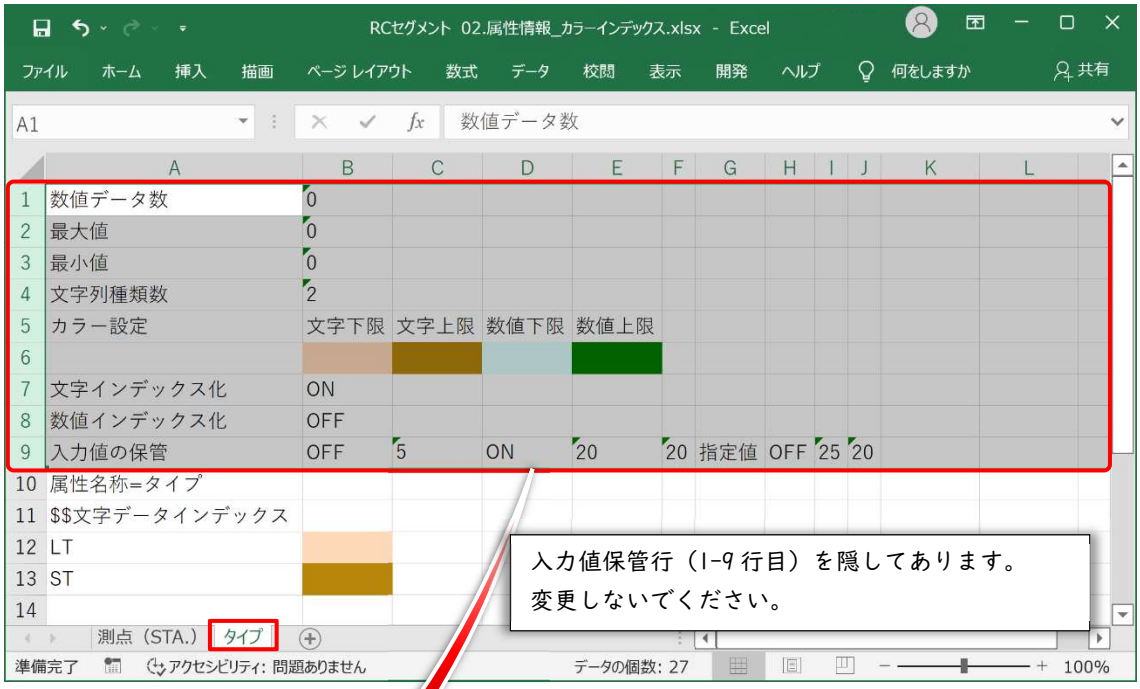
図面のフォルダーと同列に専用のサブフォルダー（名称固定）を作って保管します。

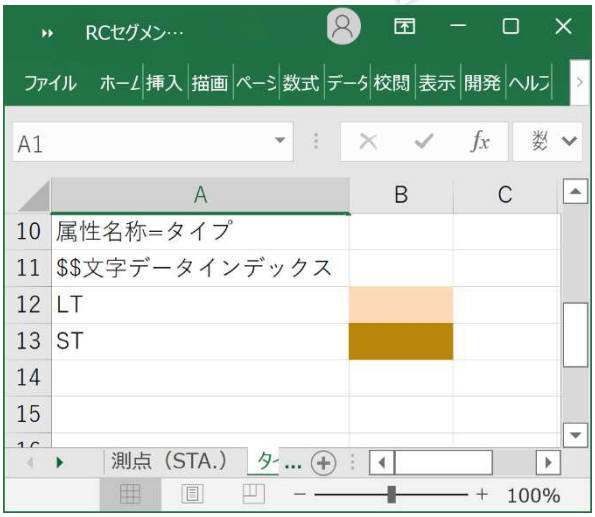
ファイル名＝グループ名＿属性種別_カラーインデックス.xlsx です。

例：RC セグメント＿02.属性情報_カラーインデックス.xlsx

シート名は属性名称名です。

※下図をご参照ください。





3）インデックス化のルール

インデックス化対象列の各セル毎に分析します。分析する対象は数値あるいは文字列（数値以外）、文字列・数値混在に分類します。属性情報のデータタイプ（文字、数値、外部参照、フォルダー等）は関係ありません。

混在の場合は文字列、数値別々にインデックス化します。

※下図に例を示します。



	A	B	C	D
1	列の例 1	列の例 2	列の例 3	列の例 4
2	（文字列のみ）	（数値のみ）	（文字列のみ）	（文字列、数値混在）
3	コピー範囲（deg）	ピッチング（deg）	添加剤種別	添加剤注入圧力（kpa）
4				
5	0～190	0.23	加泥材（土丹用）	500以下
6	0～190	0.23	加泥材（土丹用）	500
7	190～350	0.25	加泥材（一般用）	500
8	190～350	0.25	加泥材（土丹用）	550
9	190～350	0.25	加泥材（土丹用）	550
10	190～350	0.24	加泥材（一般用）	551
11	190～350	0.25	加泥材（土丹用）	555
12	350～360	0.26	加泥材（土丹用）	550
13	350～360	0.27	加泥材（一般用）	550
14	350～360	0.28	加泥材（一般用）	550以上
15	インデックス化対象の抽出			
16	文字列種類	数値範囲	文字列種類	文字列種類
17	0～190	最小値0.23	加泥材（土丹用）	500以下
18	190～350	最大値0.28	加泥材（一般用）	550以上
19	350～360			数値範囲
20				最小値500
21				最大値550

文字列の下限　　文字列の上限　　数値の最大・最小

（昇順でのソート結果）

4）数値のインデックス化方法について

① 均等分割単純に数値の上限／下限を均等分割する方法です。

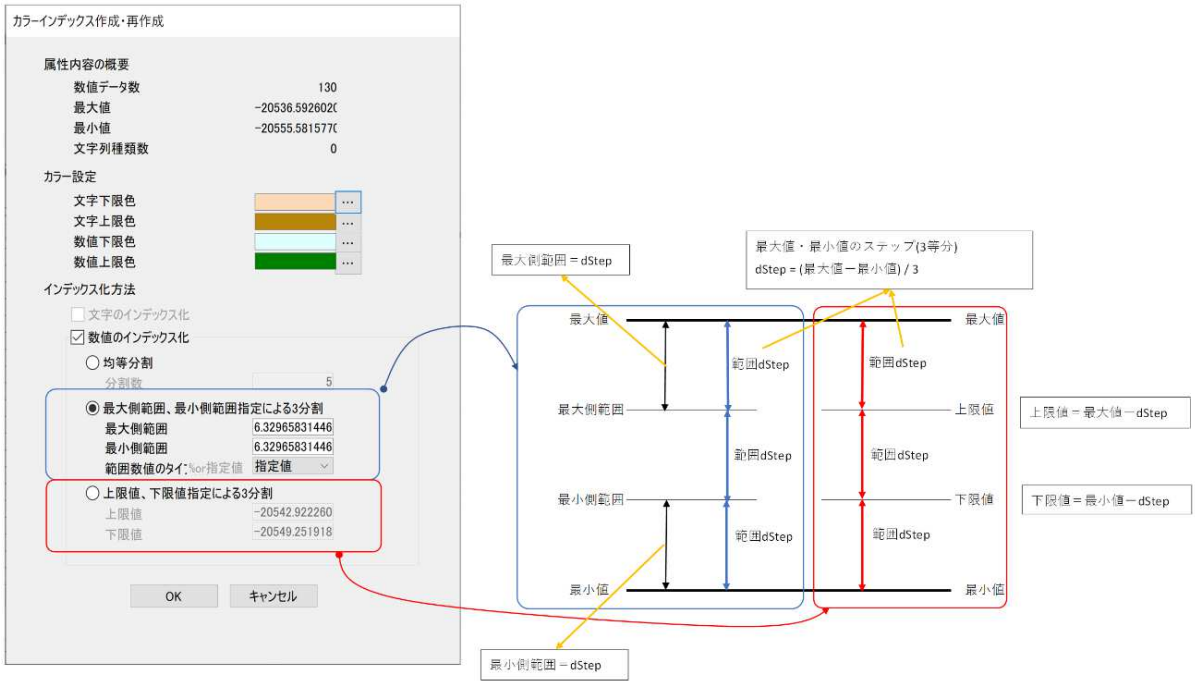
② 最大側範囲、最小側範囲指定による３分割

③ 上限値、下限値指定による３分割

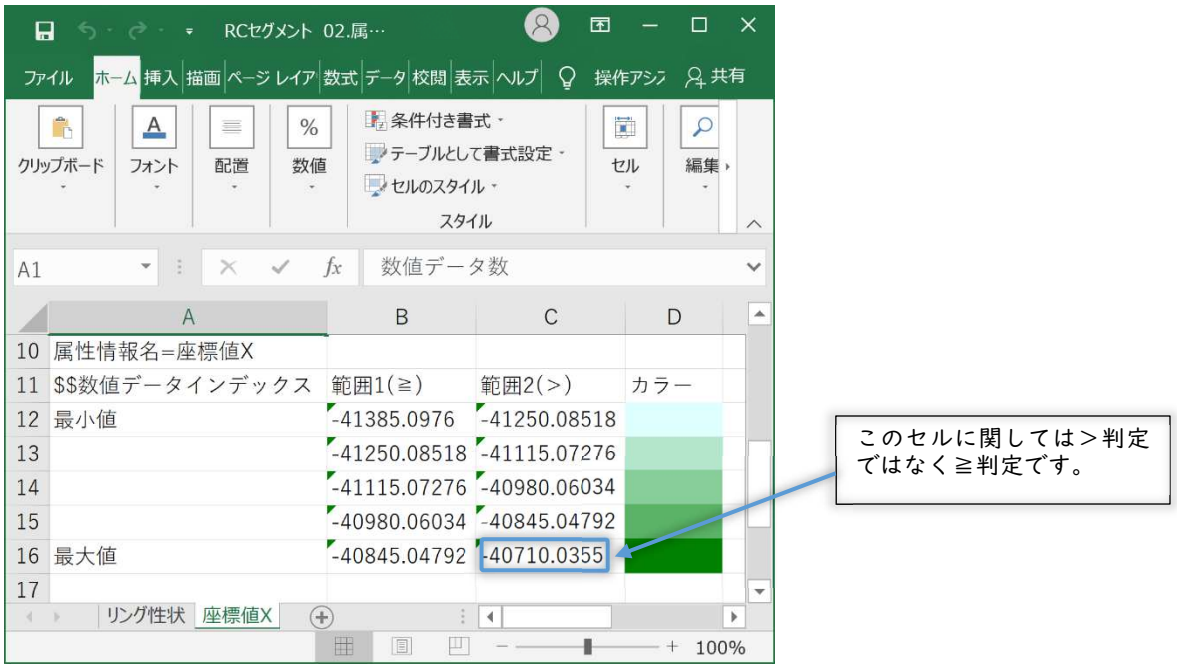
上記②③におけるデフォルト値の決め方は下図参照お願いします。

デフォルト値は各々の条件下で３等分割になるように計算されたものです。

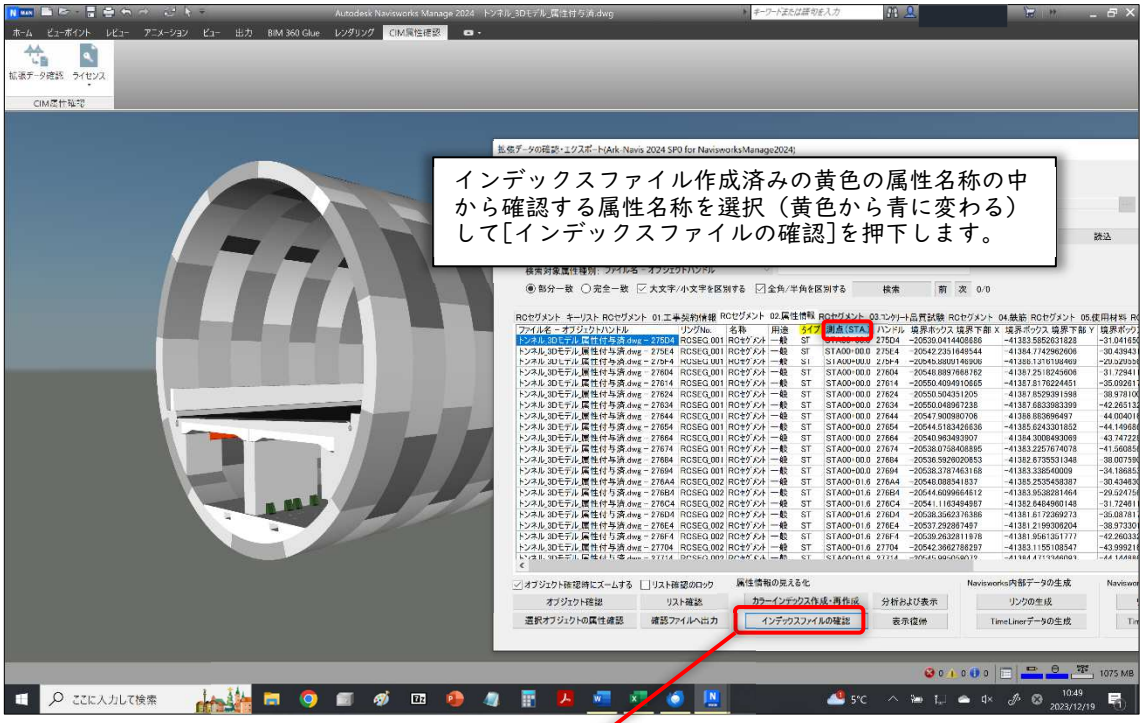
※デフォルト値の決め方を含め、下図をご参照ください。

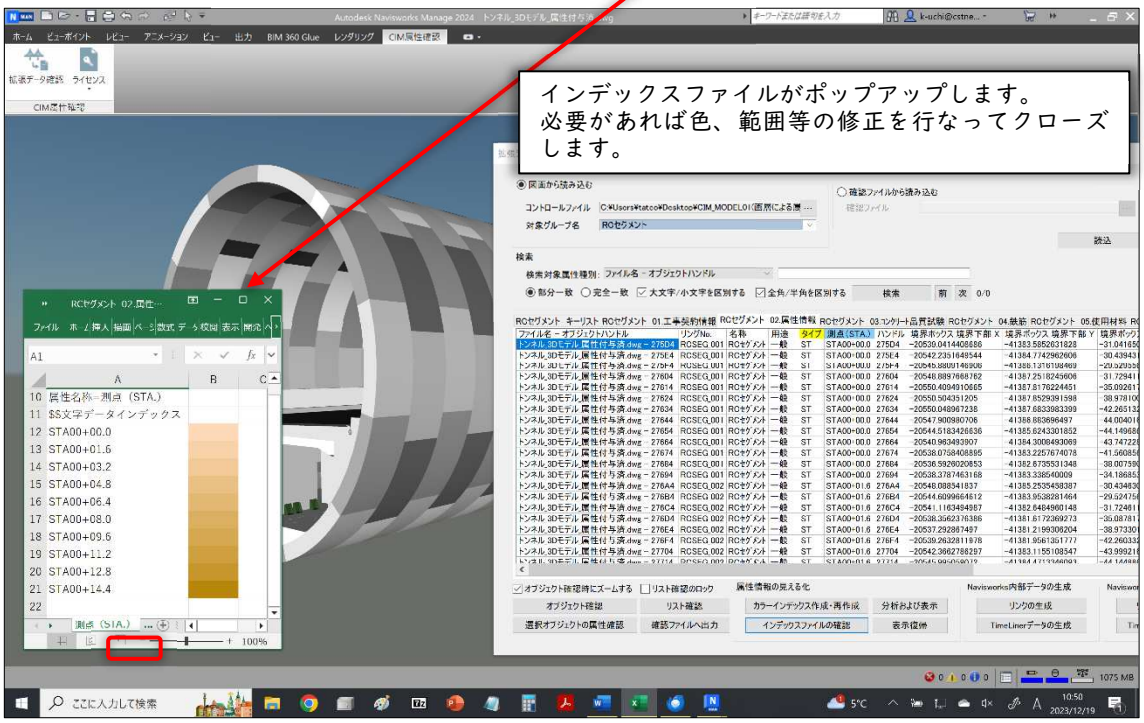


5）カラーインデックスファイル作成例（均等分割）



6）インデックスファイルの確認





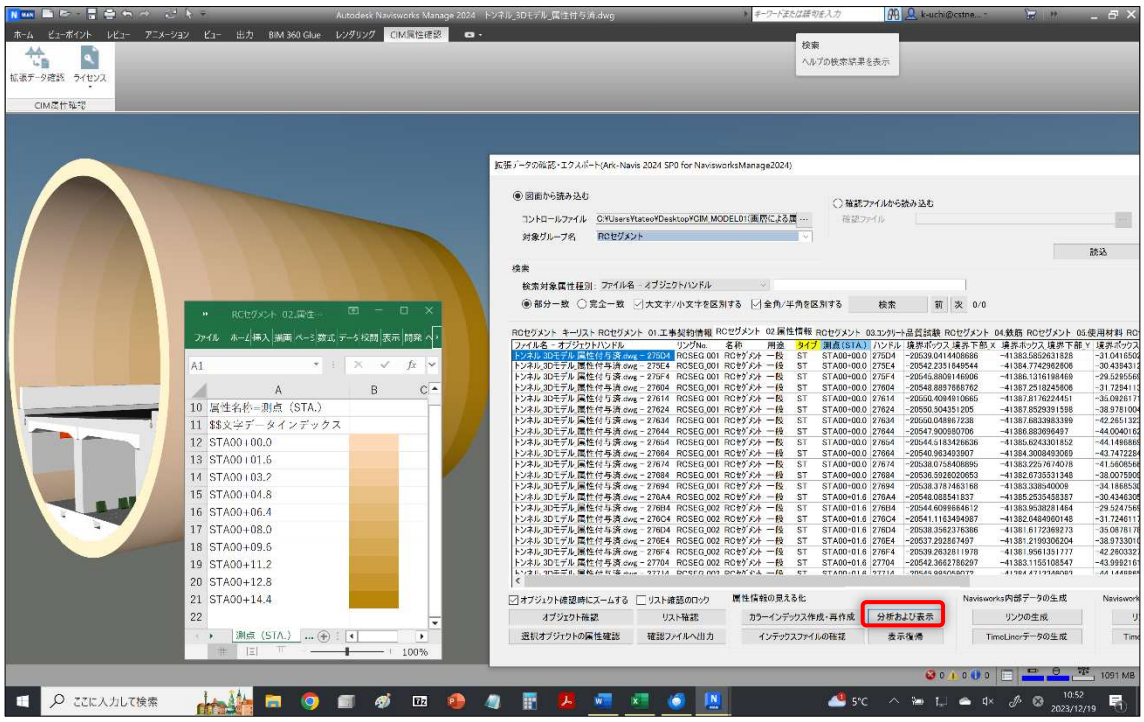
7）分析および表示

インデックスファイル作成済みの黄色の属性名称の中から表示する属性名称を選択（黄色 → 選択で青に変化）し、［分析および表示］ボタンを押下します。

見える化表示を行なうと共に、使用しているインデックスファイルをポップアップします。

※下図は「測点（STA）」を選択、見える化表示した例です。

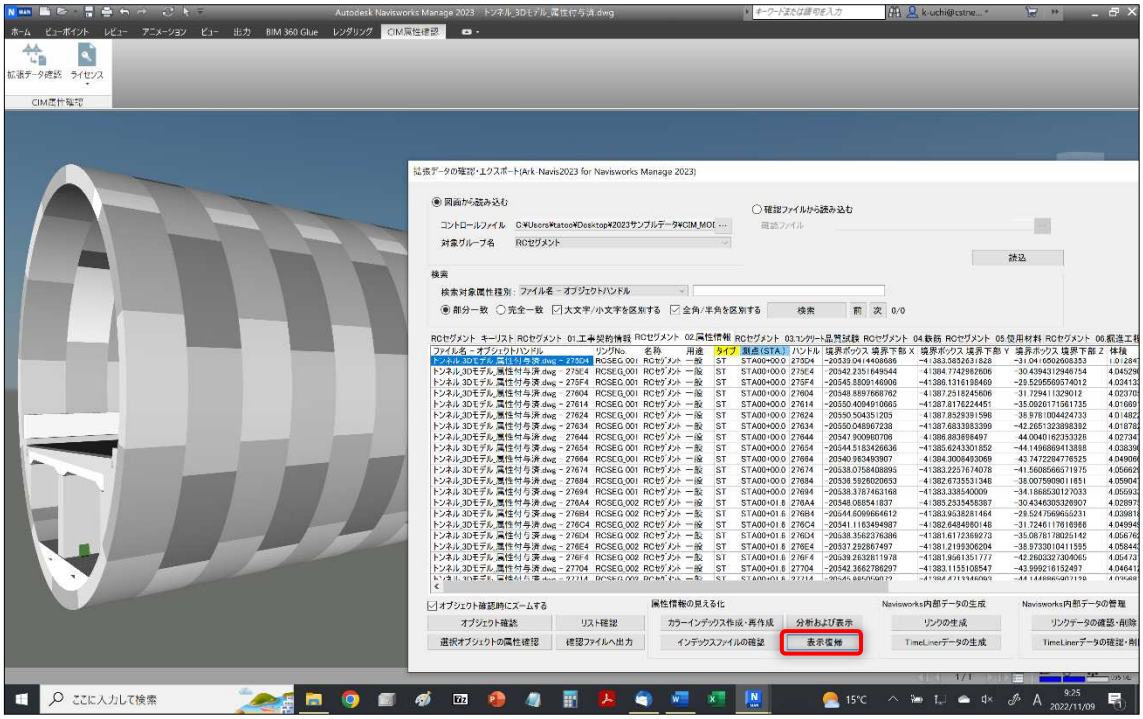
この状態で nwd に別名保管すると Navisworks Freedom でも確認できます。



8）表示復帰

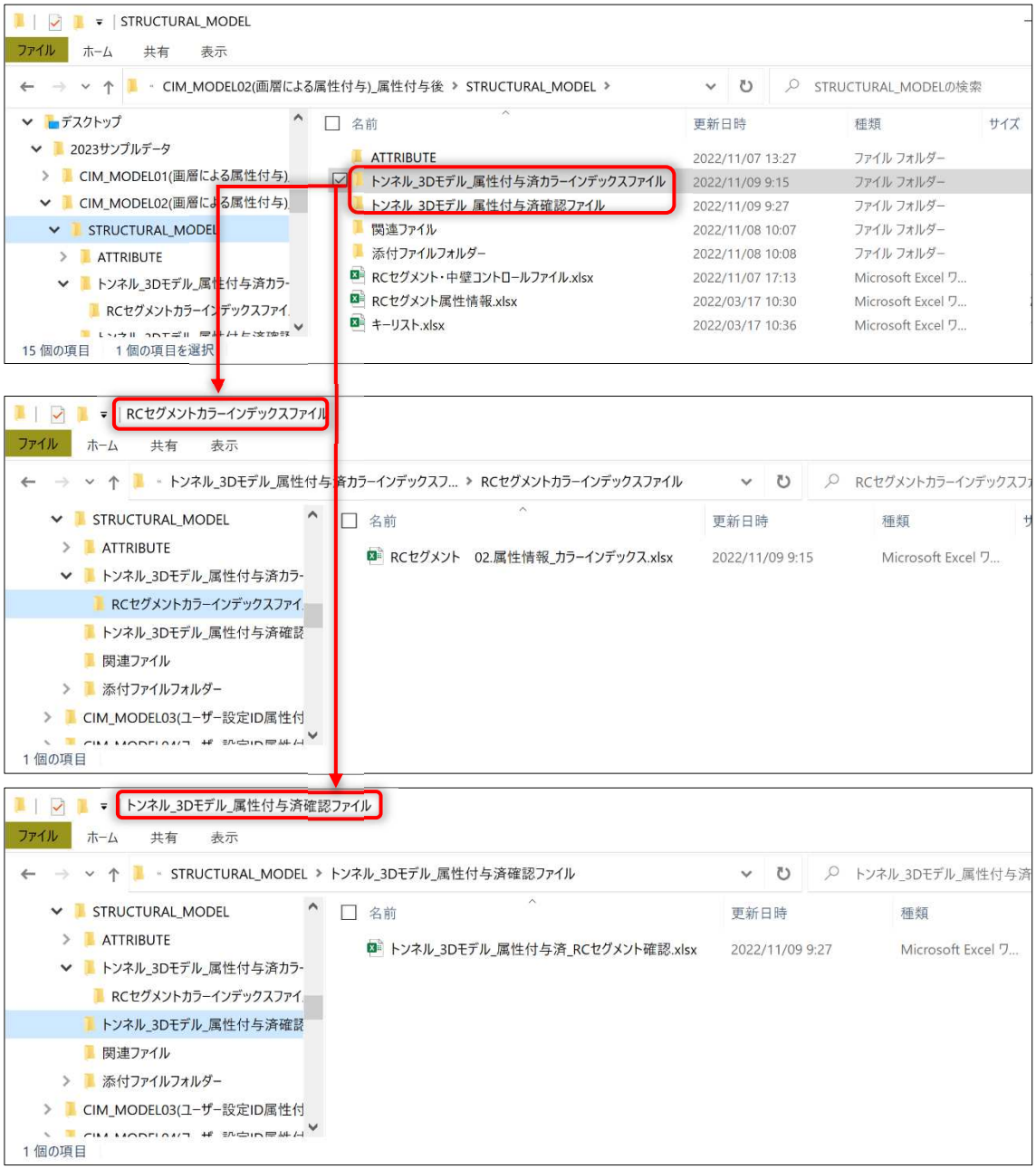
[表示復帰]ボタン押下で見える化表示を終了、通常の表示状態に戻します。

インデックスの Excel ファイルは手動でクローズします。



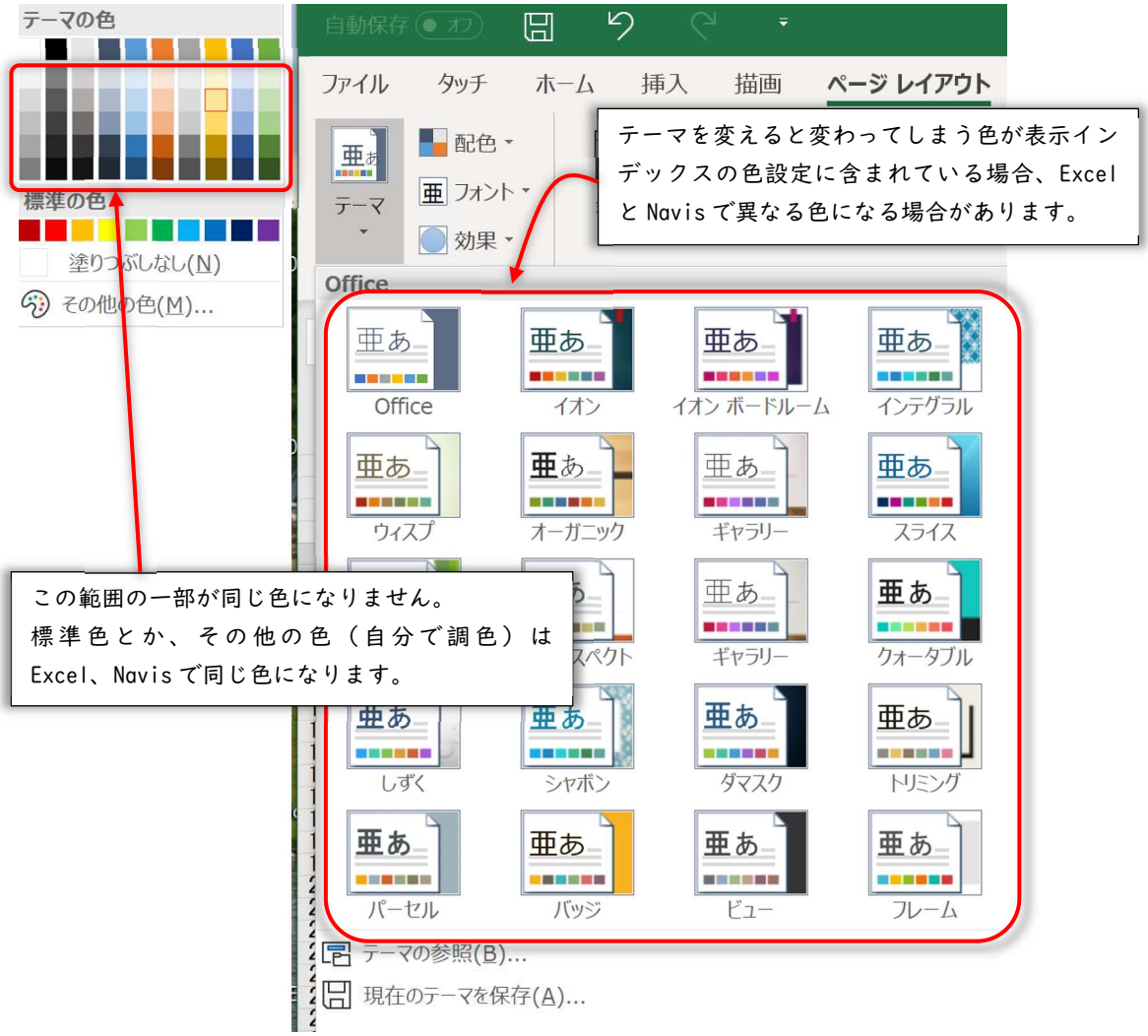
7．確認ファイル，カラーインデックスファイルのフォルダー構成

DWG 名に「カラーインデックスファイル」「確認ファイル」を追加したフォルダーに出力されます。
本書の例ではすべての必要なファイルを STRUCTURAL_MODEL 以下にまとめてあります。
【ATTRIBUTE】フォルダーは外部参照ファイルをまとめたもの、【添付ファイル】フォルダーは汎用データ（データタイプ＝フォルダー）保管先フォルダーです。



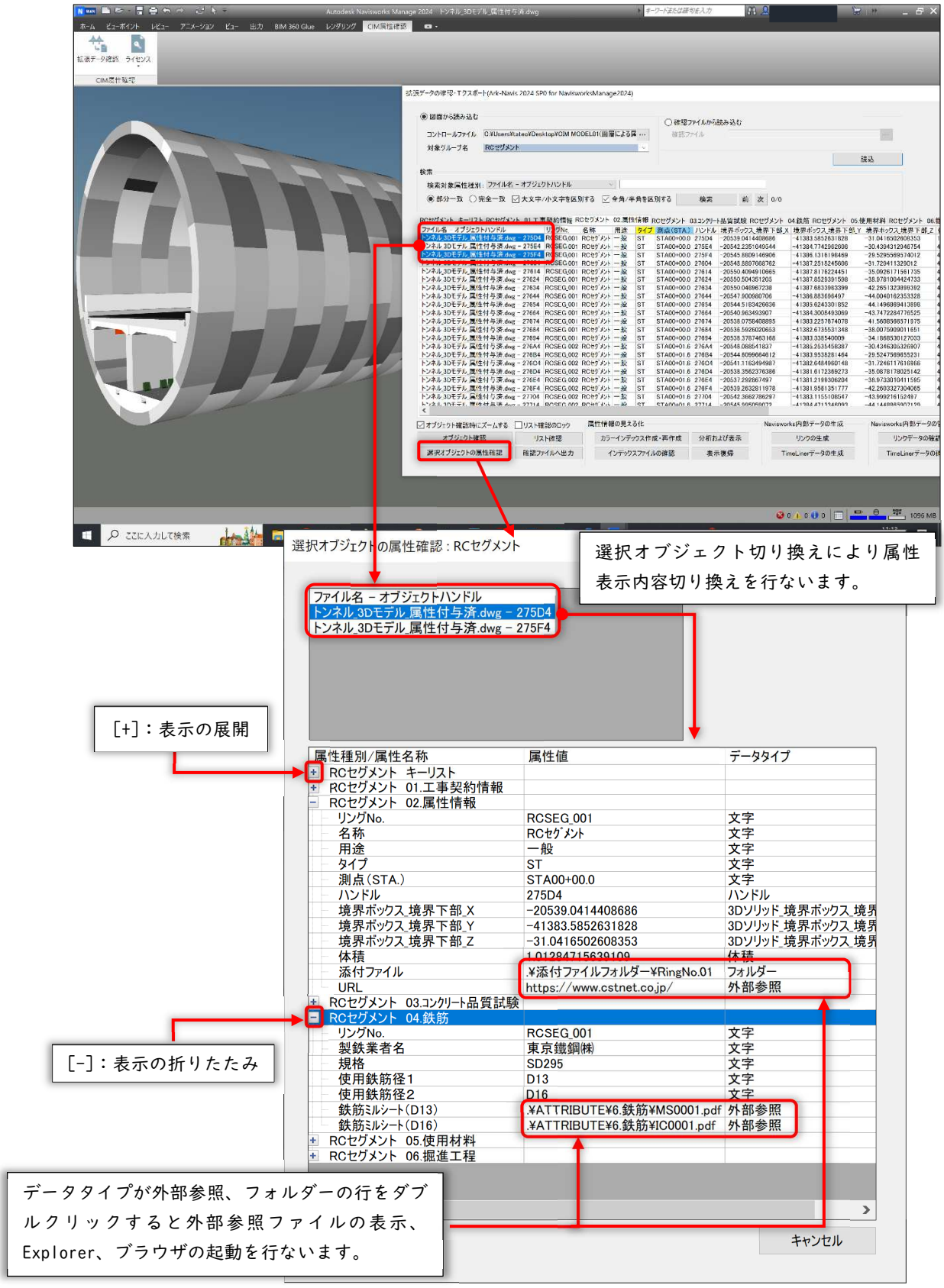
8. セルの色について

一度作成したインデックスファイルを Excel で修正した場合、Excel で表示される色と Navis で表示される色が異なる場合があります。

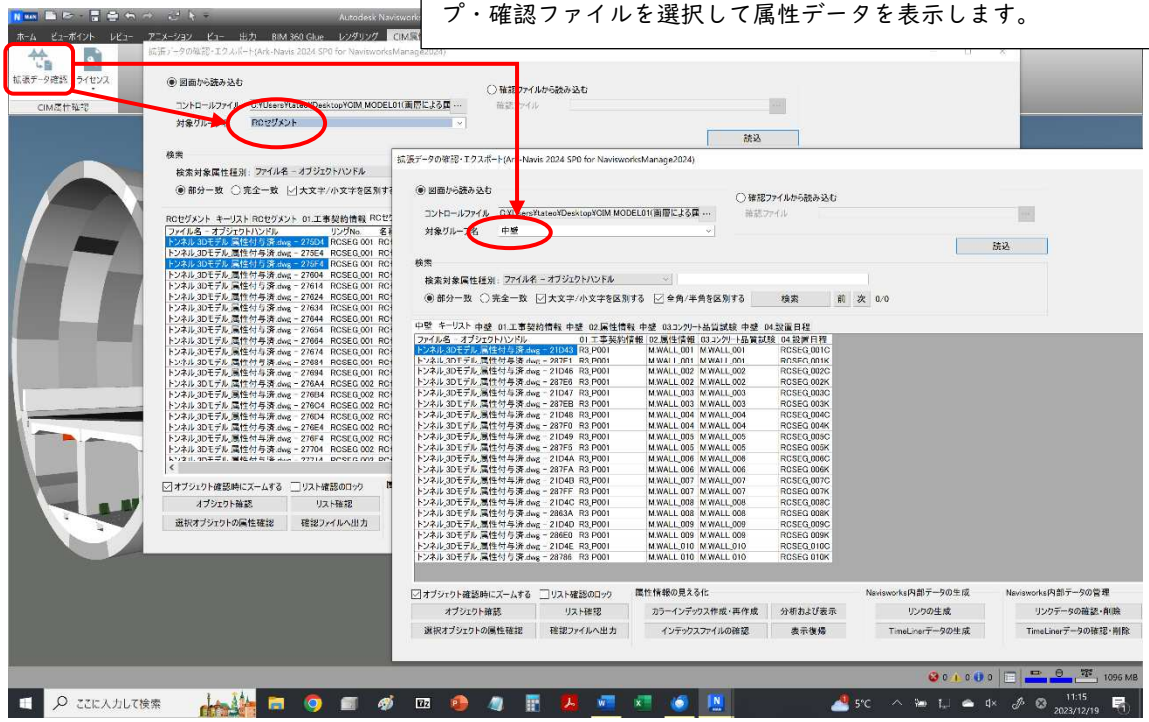


9．選択オブジェクトの属性表示機能

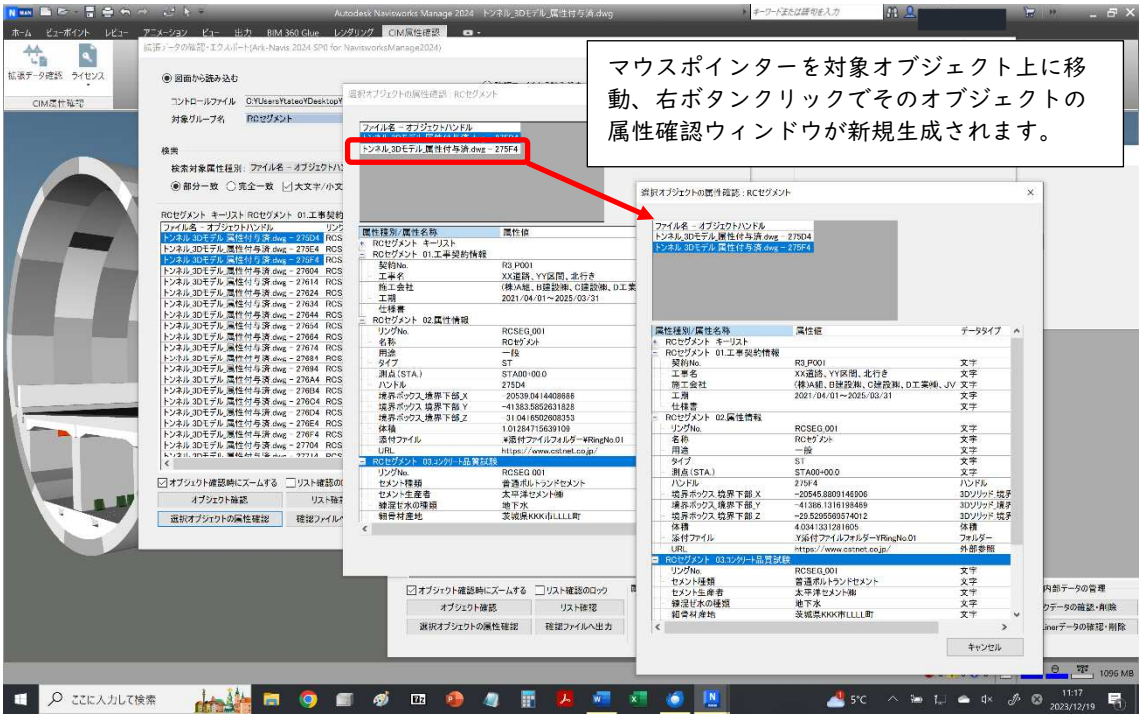
以下は前述した属性情報確認画面において選択されたオブジェクトの属性表示機能です。



10. 属性確認画面複数化



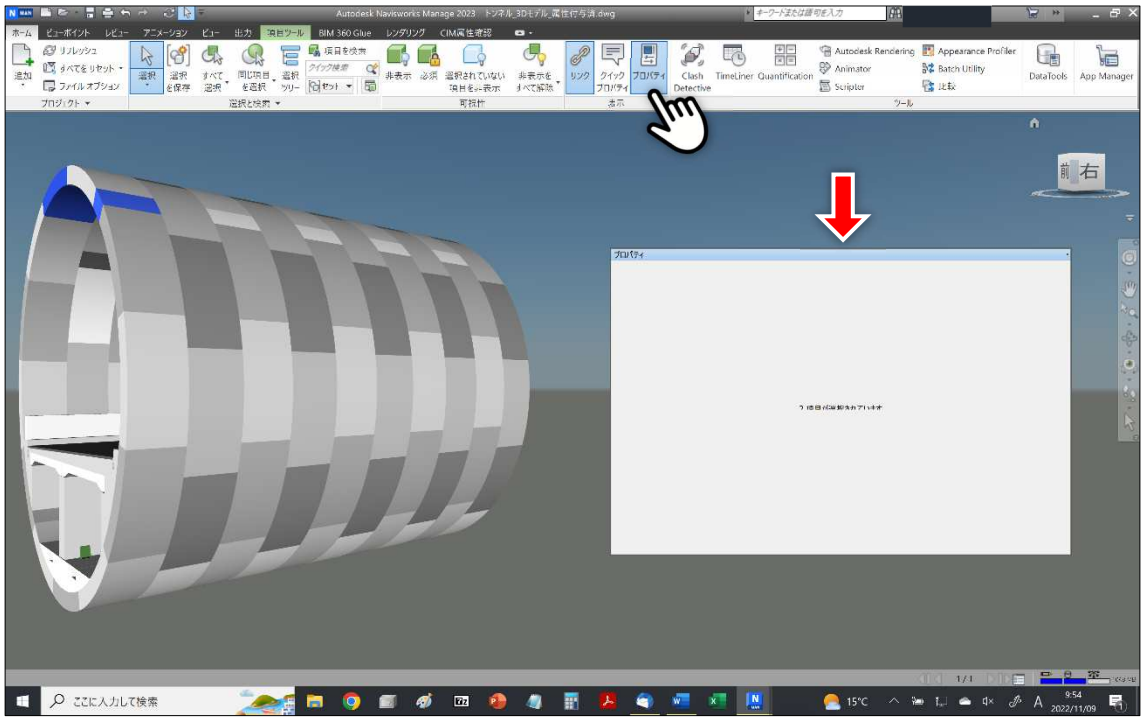
11. 選択オブジェクトの属性確認画面複数化



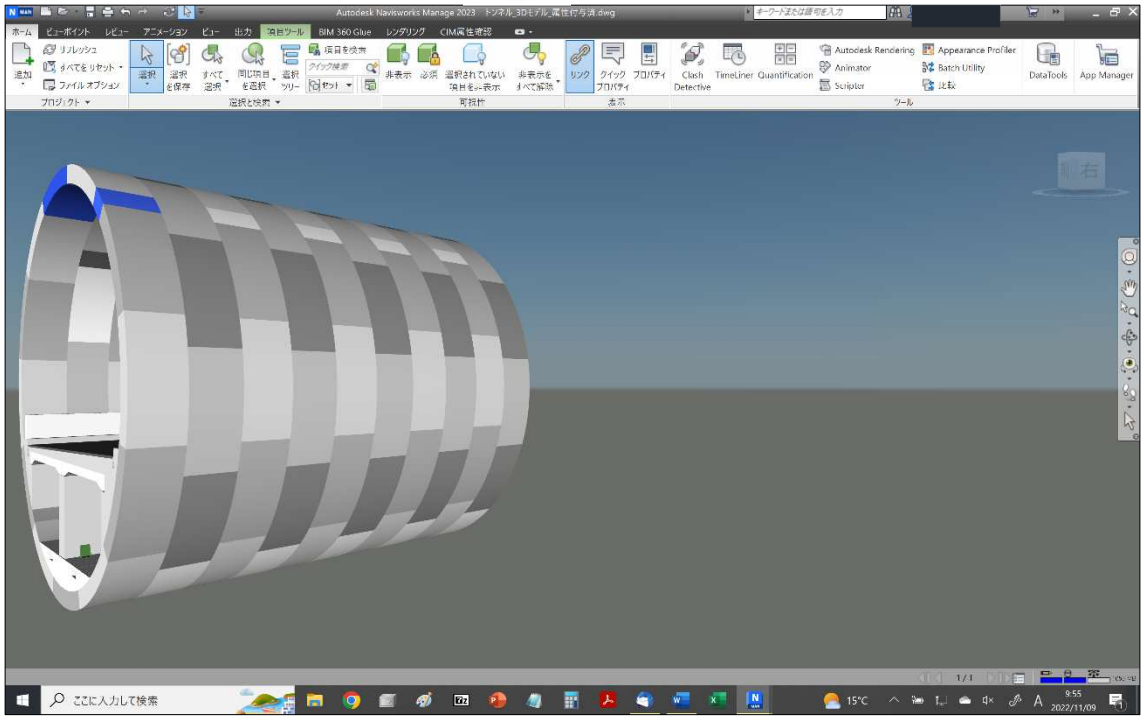
12. ハイパーリンクデータの生成

12.1. ハイパーリンク生成、確認・削除の前に

ハイパーリンク生成、確認・削除に先立ち、プロパティウインドウが表示されている場合はいったんクローズしてください。クローズしない場合、非常に処理が遅くなります。



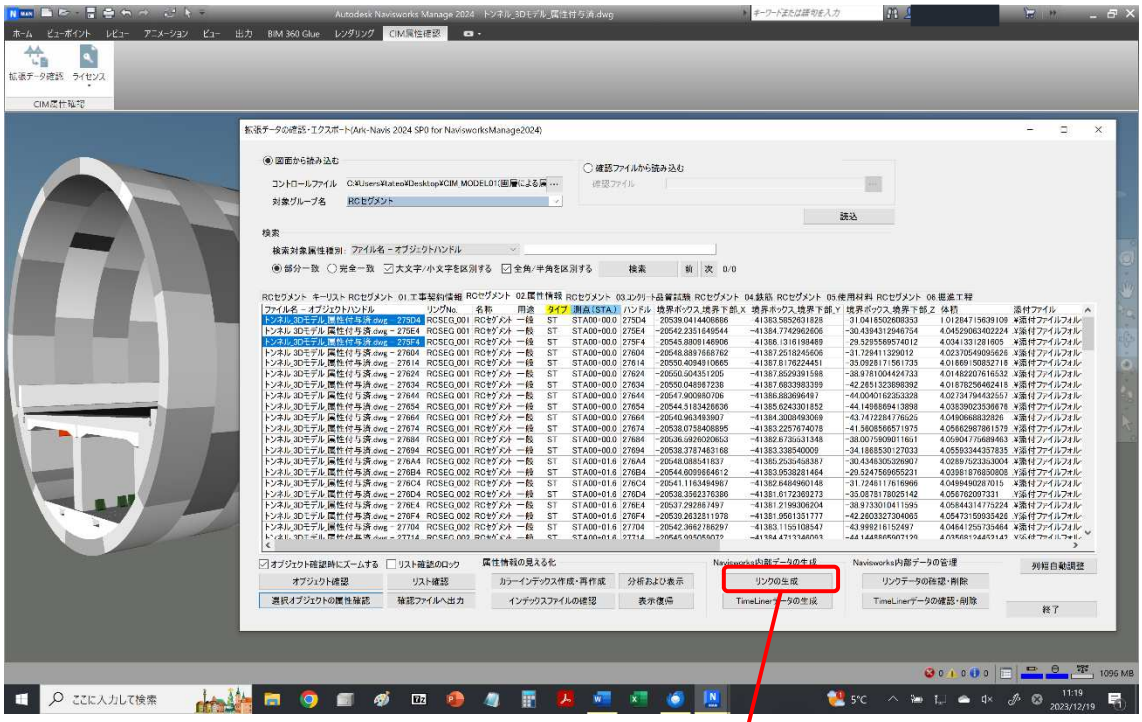
プロパティウィンドウをクローズします。

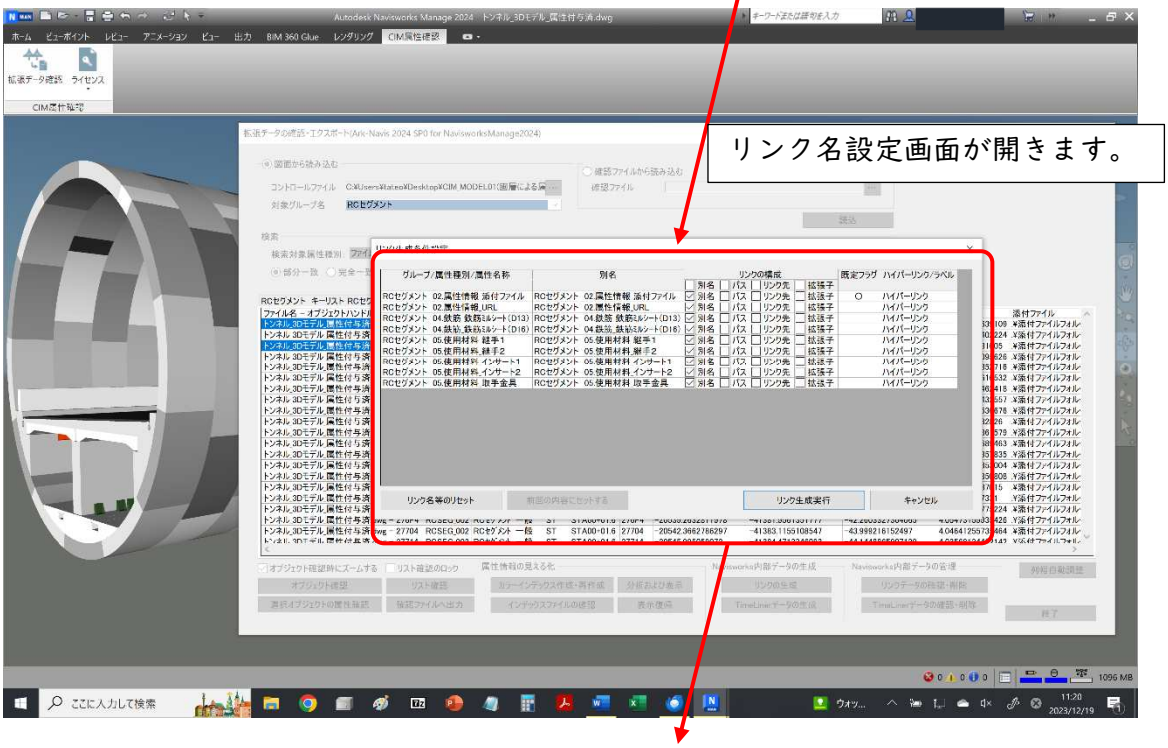


12.2. ハイパーリンク生成機能

下図［リンクの生成］ボタン押下により一覧表示されているグループに含まれる外部参照（ファイル、URL）、フォルダーのリンクを生成します。

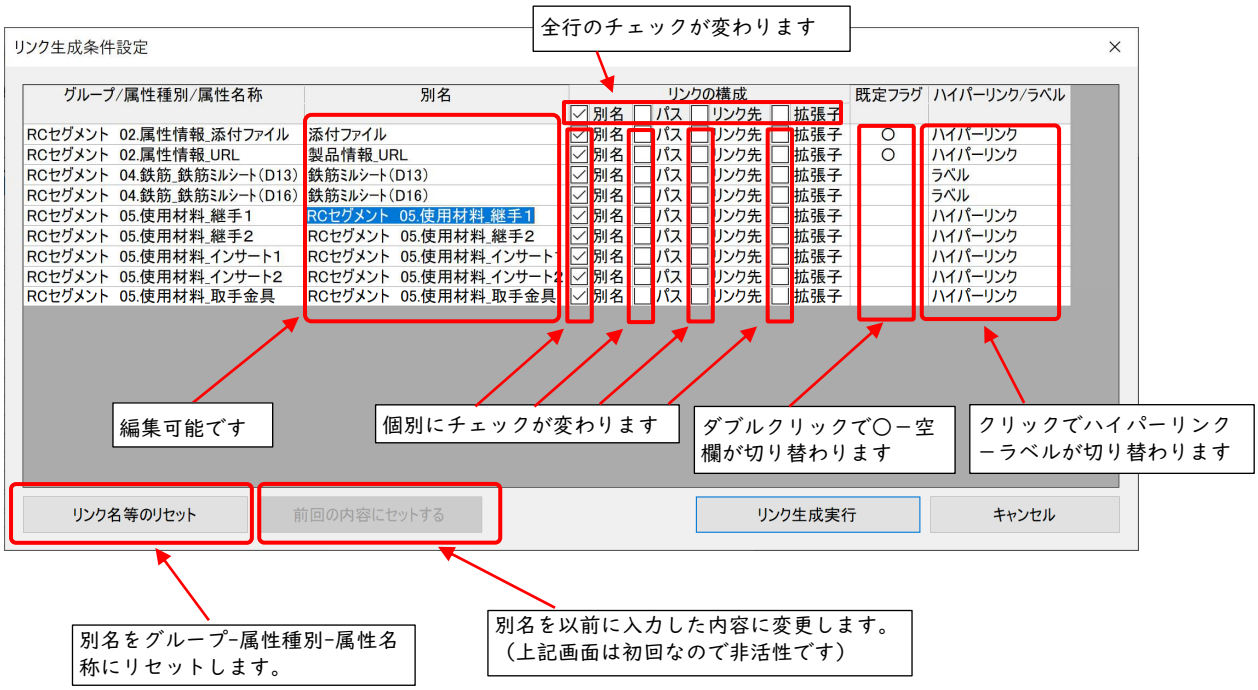
※コントロールファイルが複数のグループを含む場合、すべてのグループについて「読込－リンクの生成」を繰り返します。





詳細説明は次ページ以降

外部参照を持つ属性情報がリストアップされます。



l）設定仕様・ルール

設定仕様、ルールは以下の通りとなります。

①上記画面の設定内容は保管されます

②設定内容が保管されていない場合（＝初回）は以下がデフォルトです。

ⅰ．別名＝グループ/属性種別/属性名称

ⅱ．リンク名の構成＝別名チェック ON その他チェック OFF

ⅲ．既定フラグ＝先頭行に○

ⅳ．ハイパーリンク/ラベル＝ハイパーリンク

③「リンク名のリセット」押下で②の状態になります。

④「前回の内容にセットする」押下で保管された状態に戻します。
保管情報がない場合はメッセージ表示。

⑤グループ/属性種別/属性名称欄は修正できません。別名は自由入力できます。
既定フラグはセルをダブルクリック、ハイパーリンク/ラベルはクリックの都度入れ替ります。

⑥既定フラグは何個でも○にでき、指定しなくても構いません。
ひとつのオブジェクトに複数の属性情報ファイルによってリンクが付けられる場合、あるいは何もリンクがないオブジェクトもあるため、○を付けたリンクを既定にできない場合があるためです。

⑦既定フラグが指定されない場合、最初に生成したリンクが既定です。
既定が指示されたが実際には当該オブジェクトにリンクが生成されなかった場合、複数の既定フラグが指定された等の場合、既定のリンクは不定となります。

⑧リンクデータの確認・削除時（後述）はリンク名の構成で指定された内容を表示します。

⑨一括指示チェックボックス

チェックを ON/OFF することにより、表内の別名・パス・リンク先・拡張子のチェックボックスが連動します。

2) チェックボックス内のチェックとリンク名の関連性

以下にチェックとリンク名の関連について例示します。

①URL の場合

パス、拡張子のチェックボックスは無視します。

例）属性付与結果＝https://www.cstnet.co.jp/の場合

☑別名　☐パス　☑リンク先　☐拡張子

リンク名＝製品概要 URL: https://www.cstnet.co.jp/

☐別名　☐パス　☑リンク先　☐拡張子

リンク名＝https://www.cstnet.co.jp/

② フォルダーの場合

拡張子のチェックボックスは無視します。

例）属性付与結果＝.¥RC セグメント¥Ring.No.1 の場合

☑別名　☑パス　☑リンク先　☐拡張子

リンク名＝フォルダー.¥RC セグメント¥Ring.No.1

☐別名　☑パス　☑リンク先　☐拡張子

リンク名＝.¥RC セグメント¥Ring.No.1

☐別名　☐パス　☑リンク先　☐拡張子

リンク名＝Ring.No.1

③ファイルの場合

すべてのチェックボックスの内容に従います。

例）属性付与結果＝.¥ATTRIB¥10.材料証明書¥IC0001.pdf の場合

☑別名　☑パス　☑リンク先　☑拡張子

リンク名＝材料証明書.¥ATTRIB¥10.材料証明書¥IC0001.pdf

☐別名　☑パス　☑リンク先　☑拡張子

リンク名＝.¥ATTRIB¥10.材料証明書¥IC0001.pdf

☐別名　☐パス　☑リンク先　☑拡張子

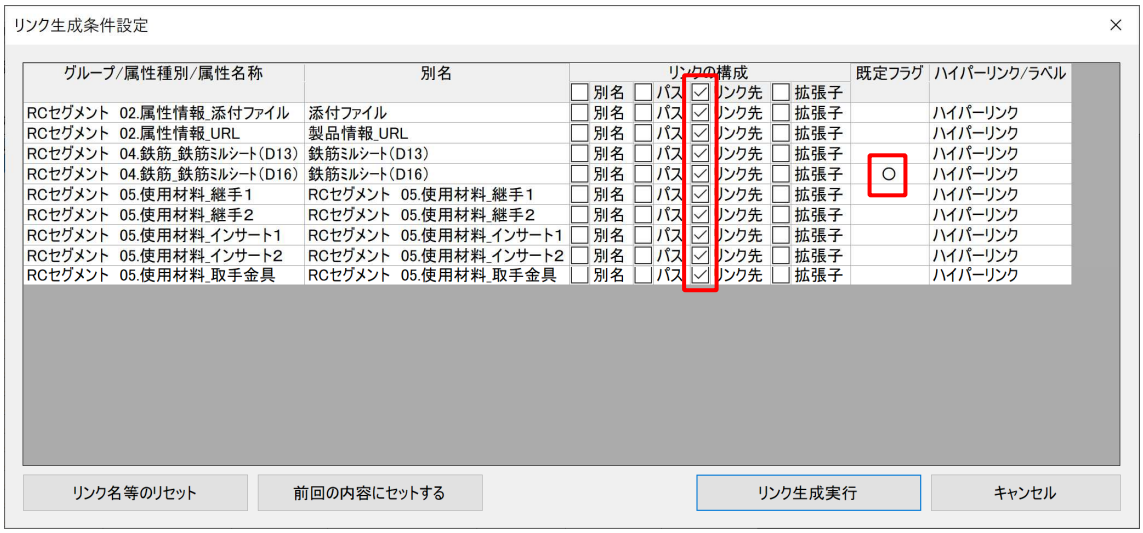
リンク名＝IC0001.pdf

☐別名　☐パス　☑リンク先　☐拡張子

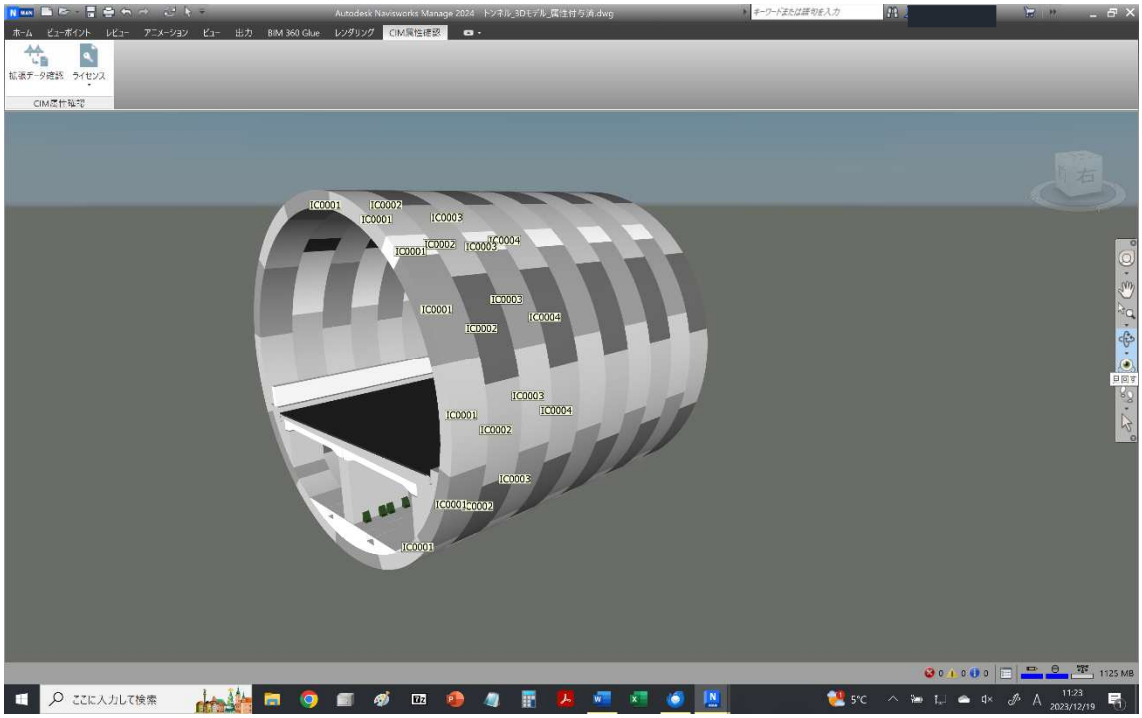
リンク名＝IC0001

3）リンク名を外部参照ファイルにする場合の設定例と結果表示例

① 設定例

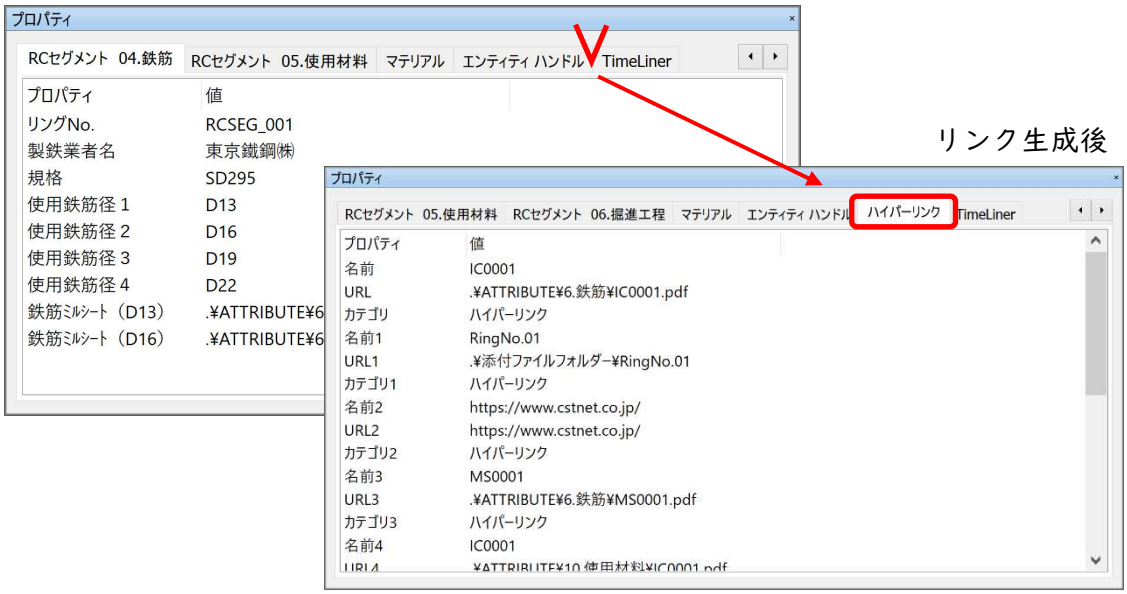


② 結果表示例

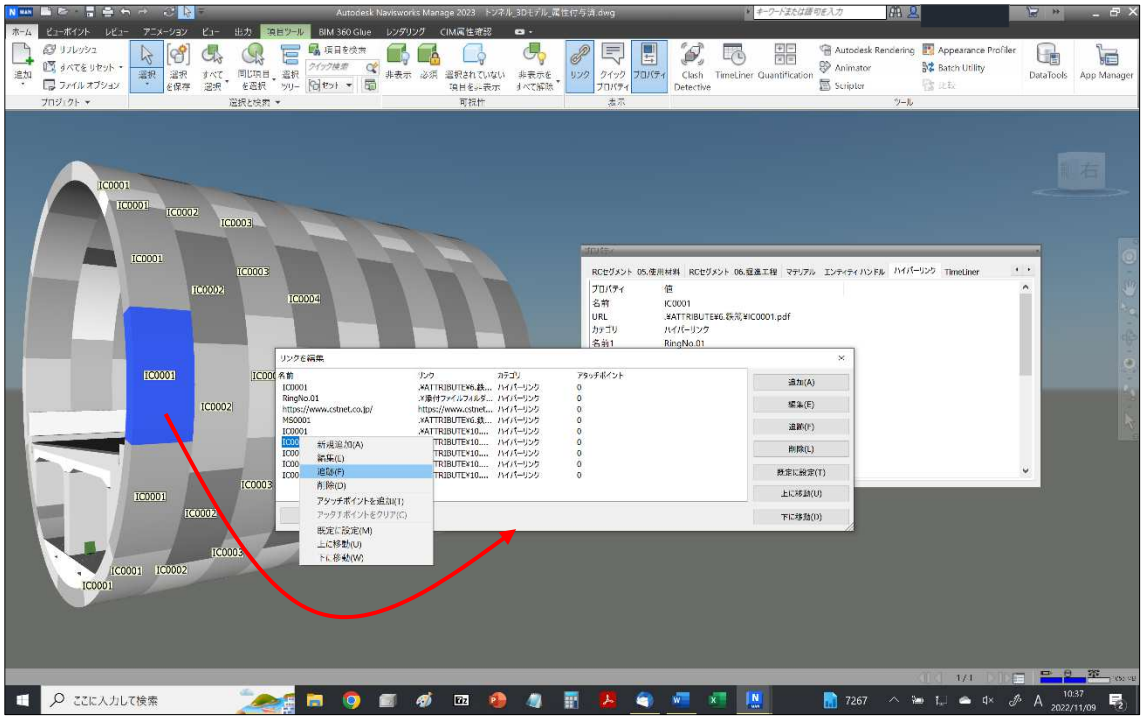


4）ハイパーリンク生成後の Navisworks 標準機能画面

リンク生成前



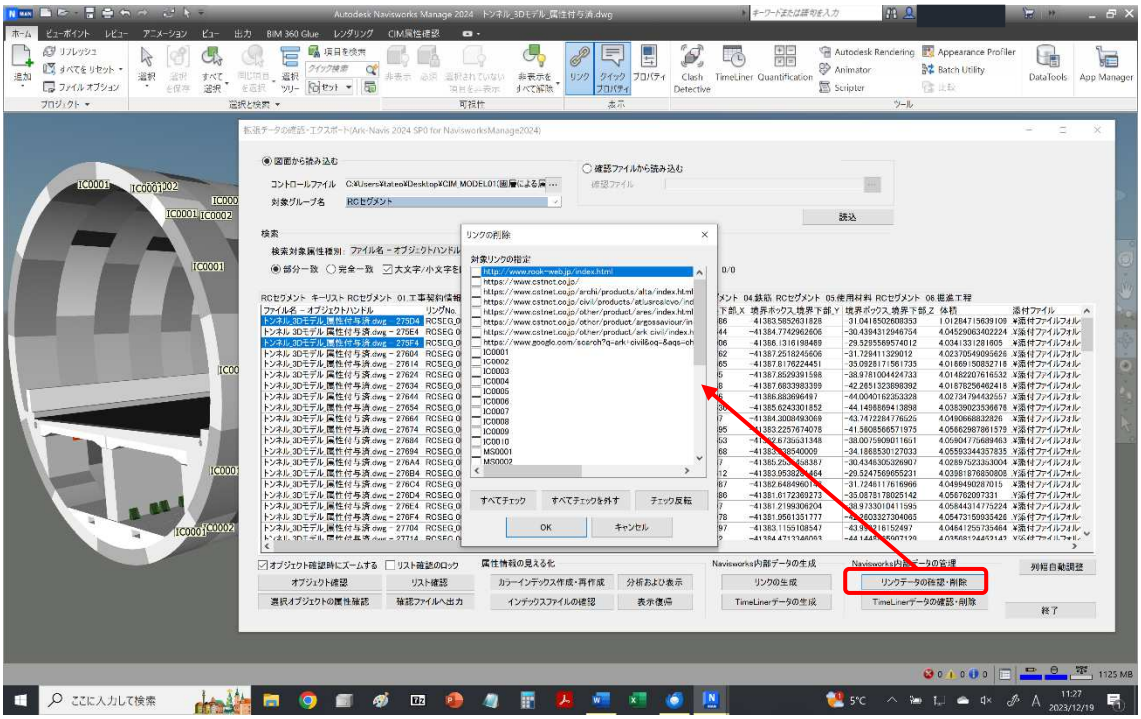
5）Navisworks Manage 標準機能でのハイパーリンク先の追跡



12.3. ハイパーリンクの確認・解除

［リンクデータの確認・削除］ボタンを押下すると、開いているモデルに含まれるリンクの名前をリストアップします。

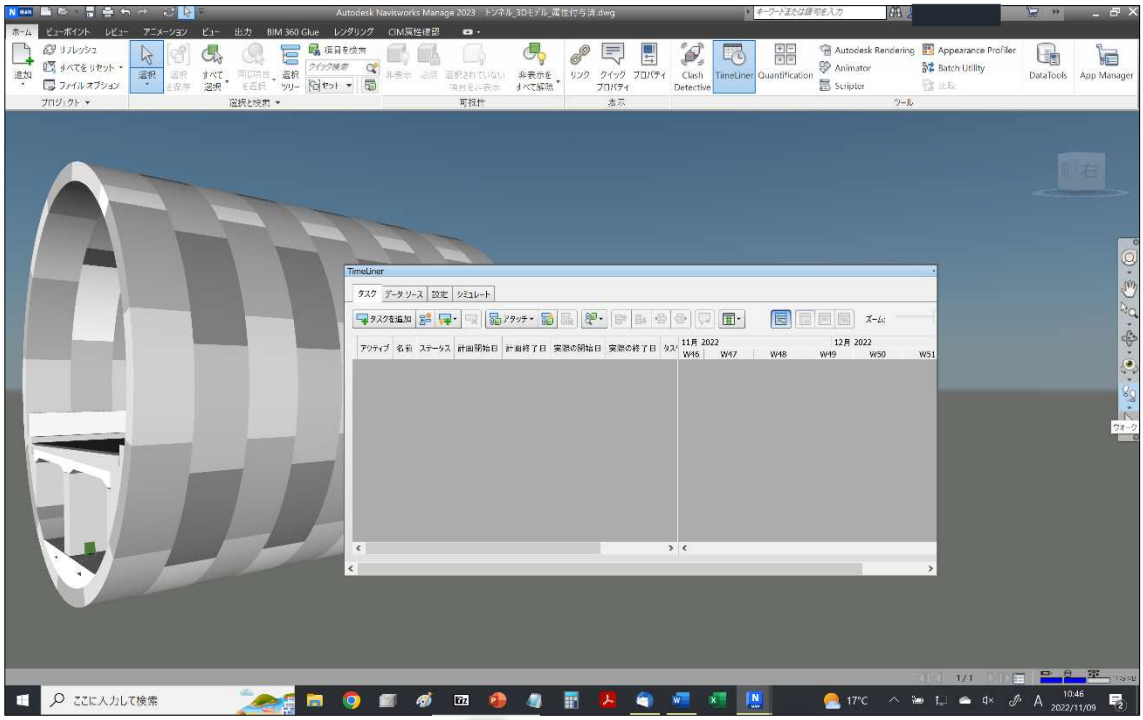
チェックを付けて［ＯＫ］ボタンを押下すると、指定した名前のリンクを全オブジェクトから削除します。



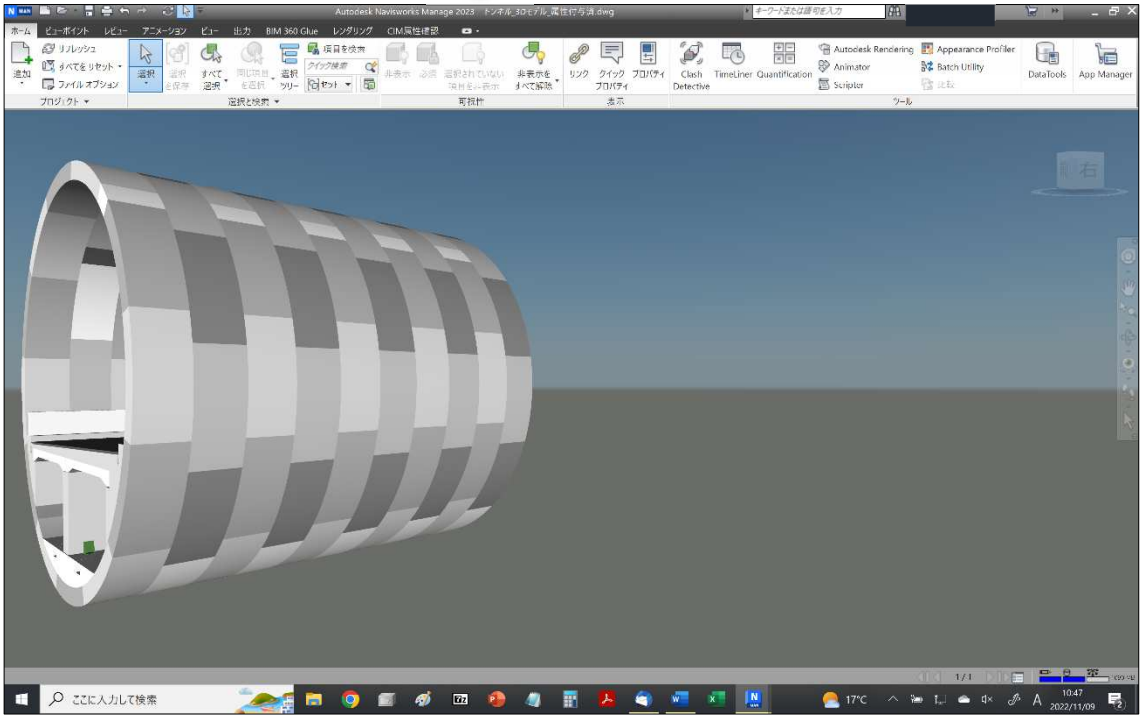
13. TimeLiner データ生成

13.1. TimeLiner データ生成、確認・削除の前に

TimeLiner データ生成、確認・削除に先立ち、TimeLiner が表示されている場合、いったんクローズしてください。クローズしない場合、非常に処理が遅くなります。



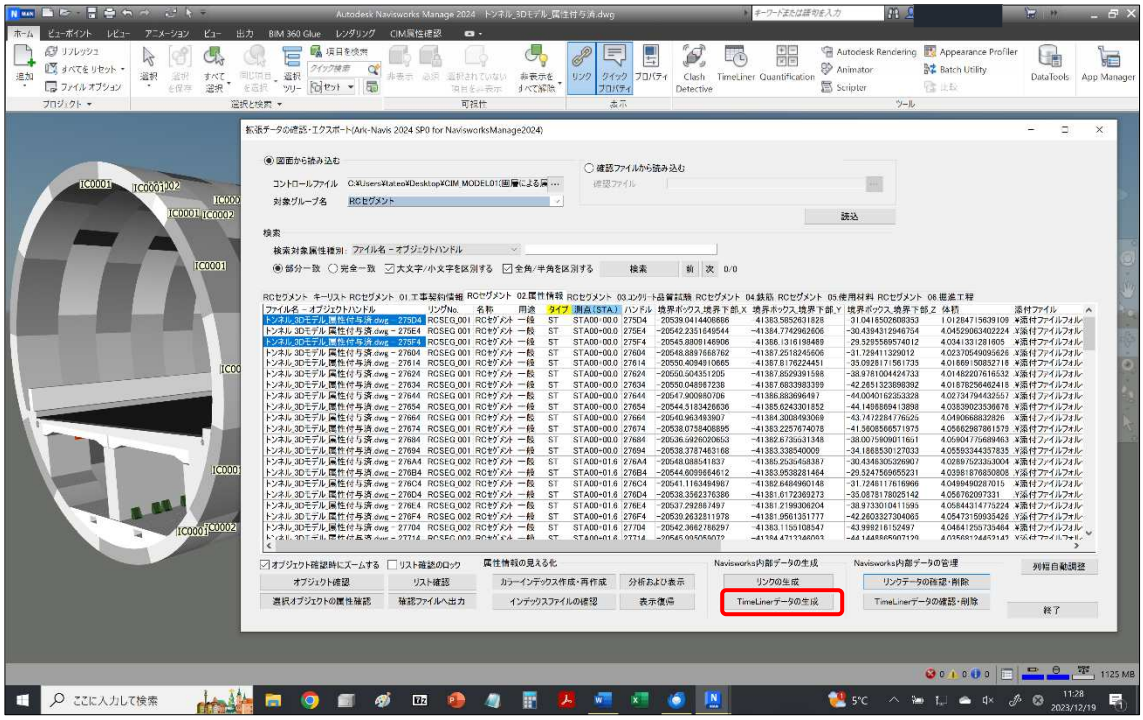
Timeliner ウィンドウをクローズします。



13.2. TimeLiner データ生成機能

1）TimeLiner データの生成

下図［TimeLiner データの生成］ボタン押下により一覧表示されているグループに含まれる TimeLiner データを作成します。



①コントロールファイルが複数のグループを含む場合、すべてのグループについて「読込－TimeLiner データの生成」を繰り返してください。

②既に同名のタスク名がある場合、処理はスキップされ内容の更新は行われません。
内容の更新が必要な場合、次項に示す削除機能で該当タスク名を削除してから TimeLiner データの再生成を行なってください。

2）TimeLiner データの作成条件

以下の属性名称が同一属性種別内にある場合に生成します。

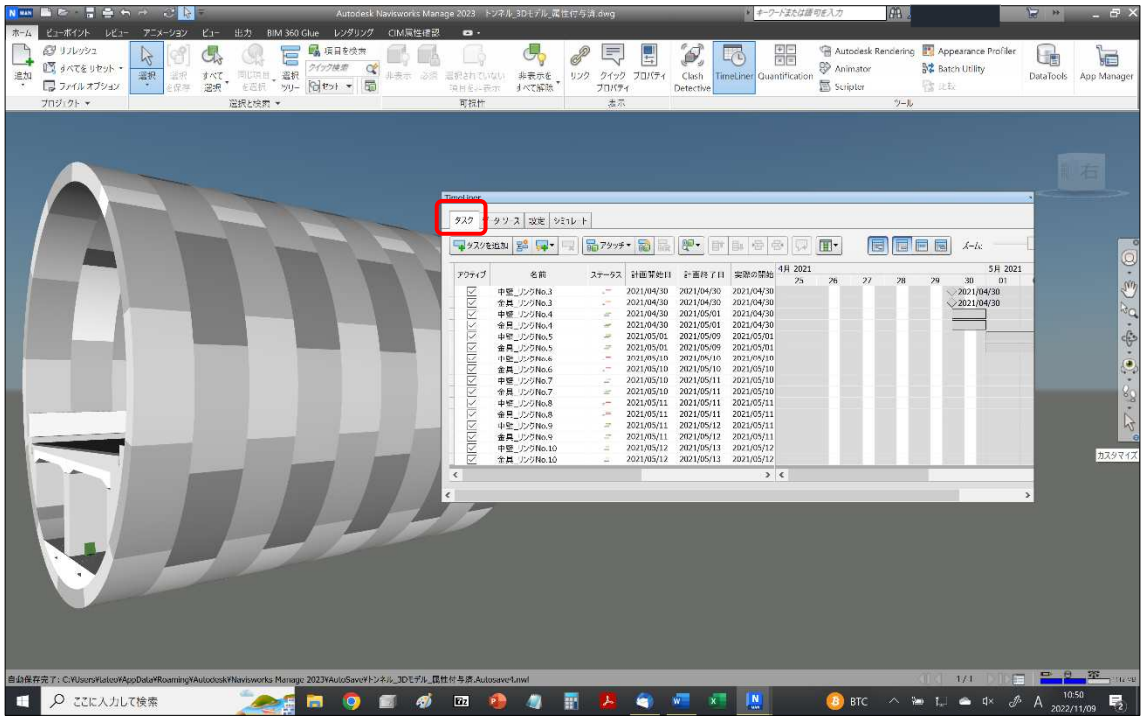
①タスク名、タスクタイプ、実際の開始日、実際の終了日、計画開始日、計画終了日

②タスク名、タスクタイプ、実際の開始日、実際の終了日

③タスク名、タスクタイプ、計画開始日、計画終了日

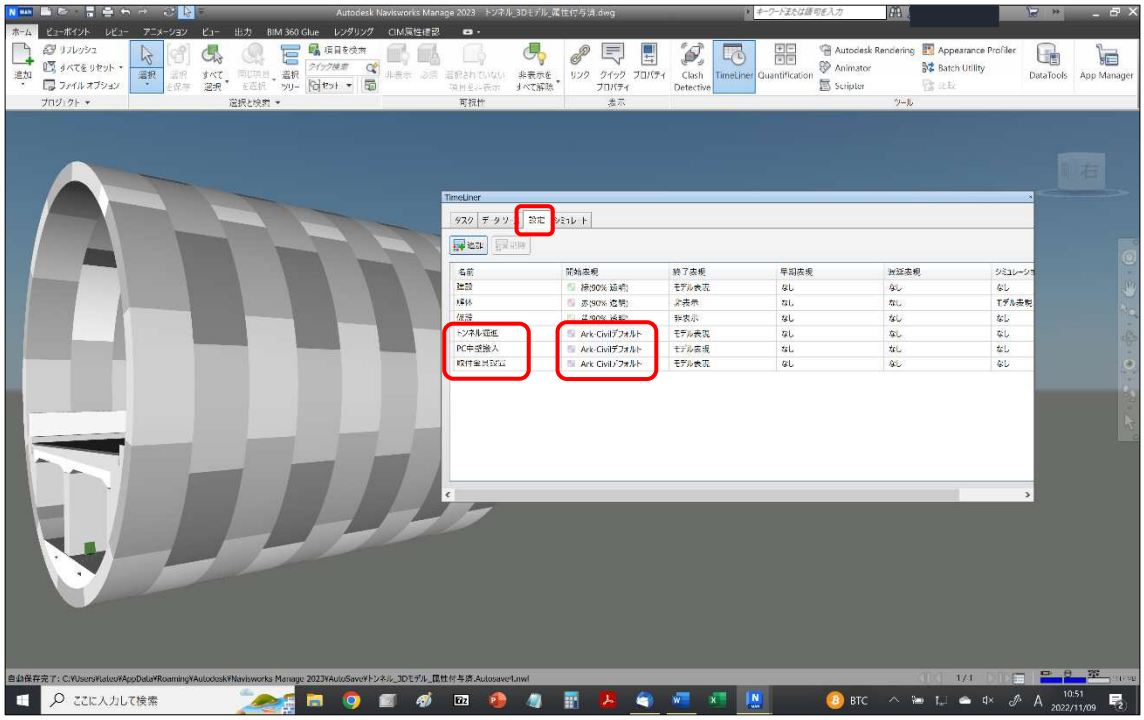
3）生成結果

①タスク



②設定

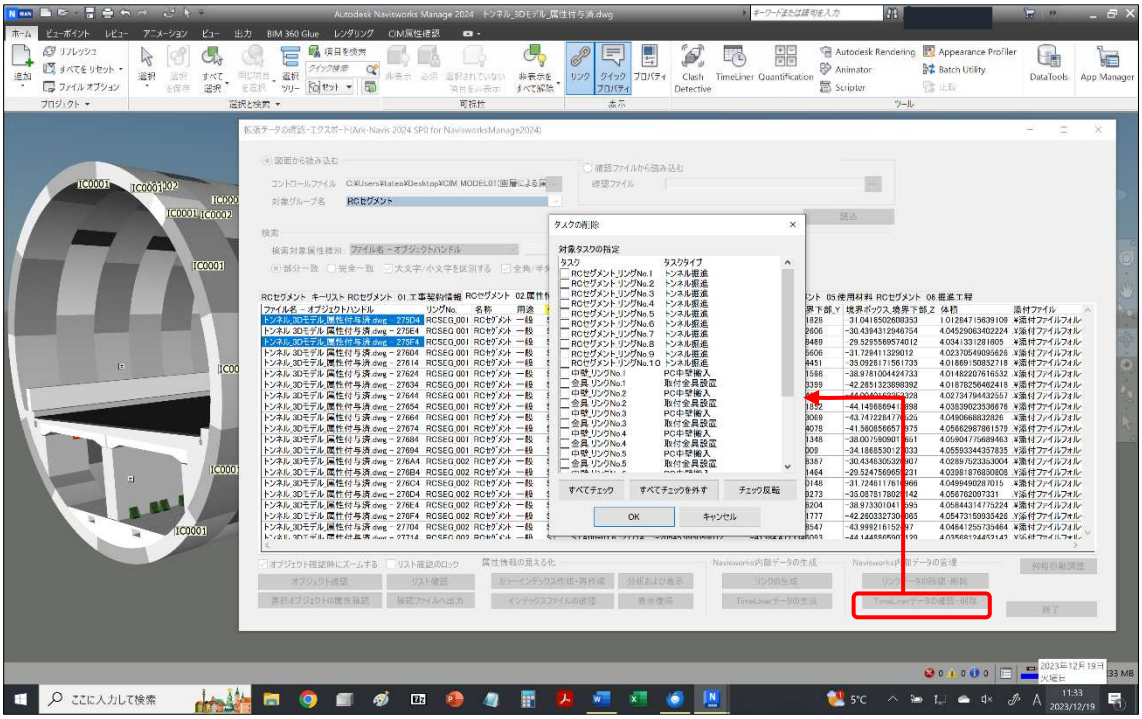
タスクタイプ、表現定義も生成されます。



13.3. TimeLiner データの確認・削除機能

［TimeLiner データの確認・削除］ボタンを押下すると、開いているモデルに含まれる TimeLiner データを削除します。

チェックを付けて［ＯＫ］ボタンを押下すると指定した名前の TimeLiner データを削除します。



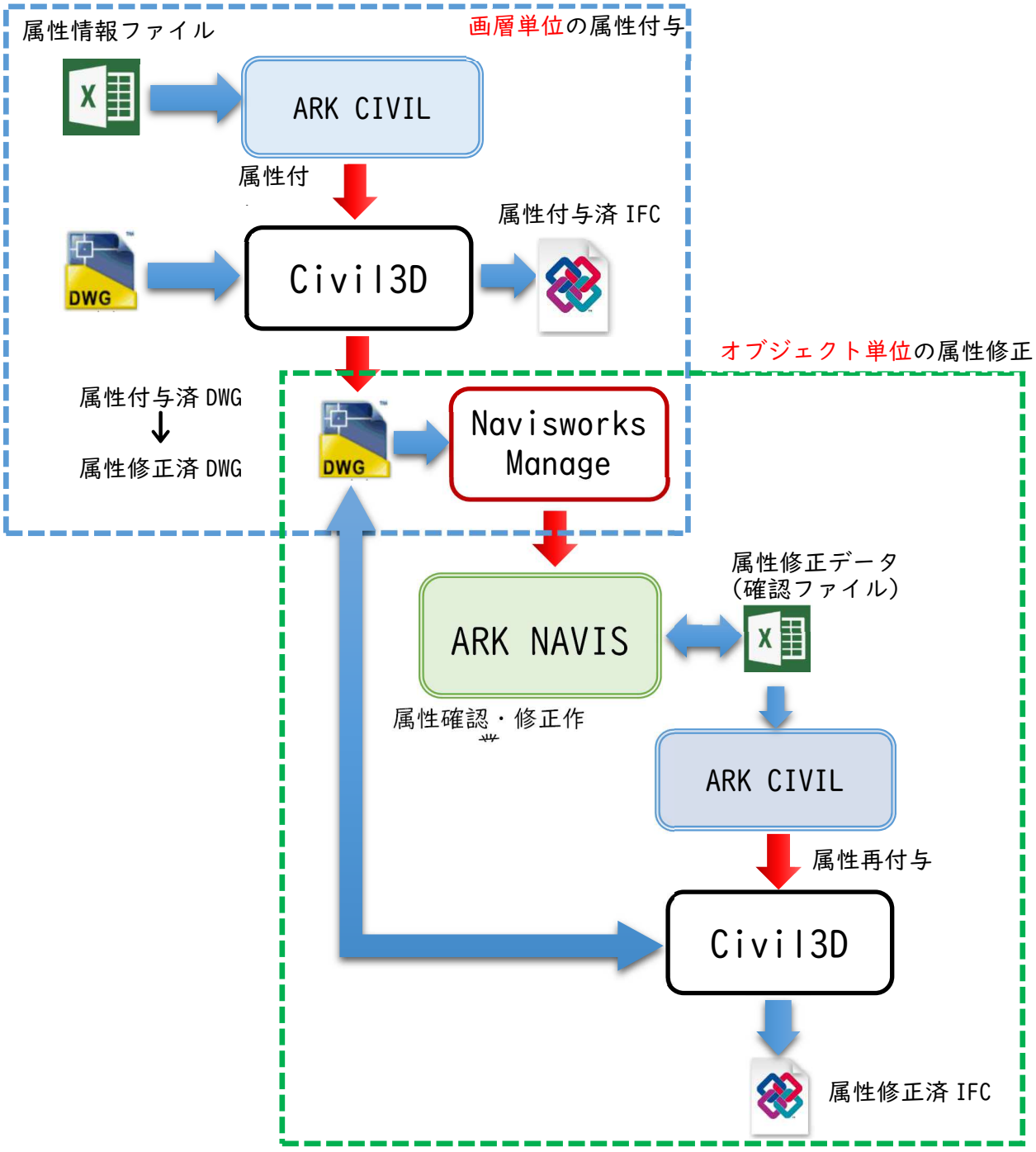
14. 属性情報の修正と確認ファイル

ARK CIVIL で付与した属性情報を Ark-Navis で修正することが可能です。

ただ、Navisworks Manage は DWG の属性情報を変更できないため、修正内容は確認ファイル（Excel ファイル）に保管されます。

ARK CIVIL でこの確認ファイルを使って DWG に再付与できます。

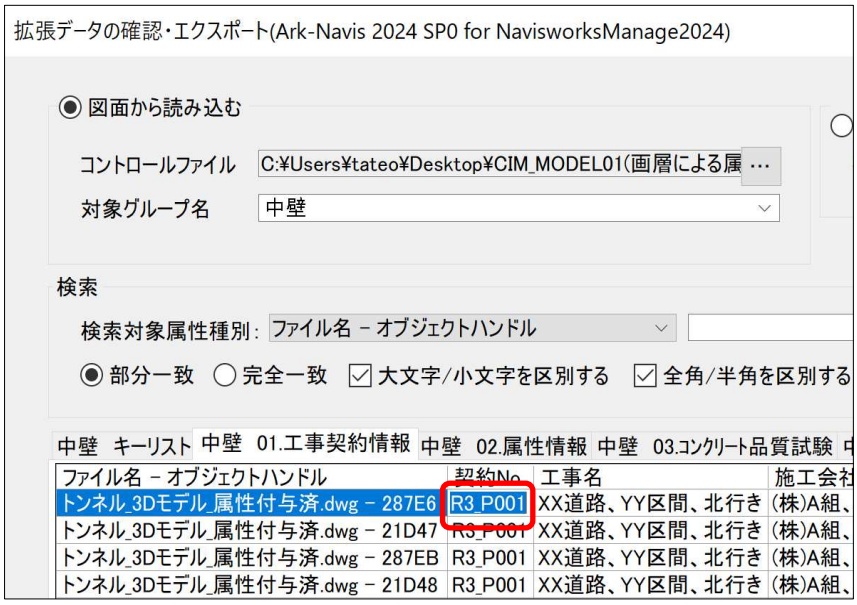
14.1. 運用フロー

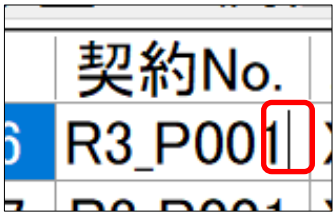


14.2. 属性修正機能

1） 基本操作：修正箇所の指定

修正するセル上でマウス右ボタンをクリックするとデータが選択状態あるいは「｜」カーソルが表示され、修正・入力可能になります。

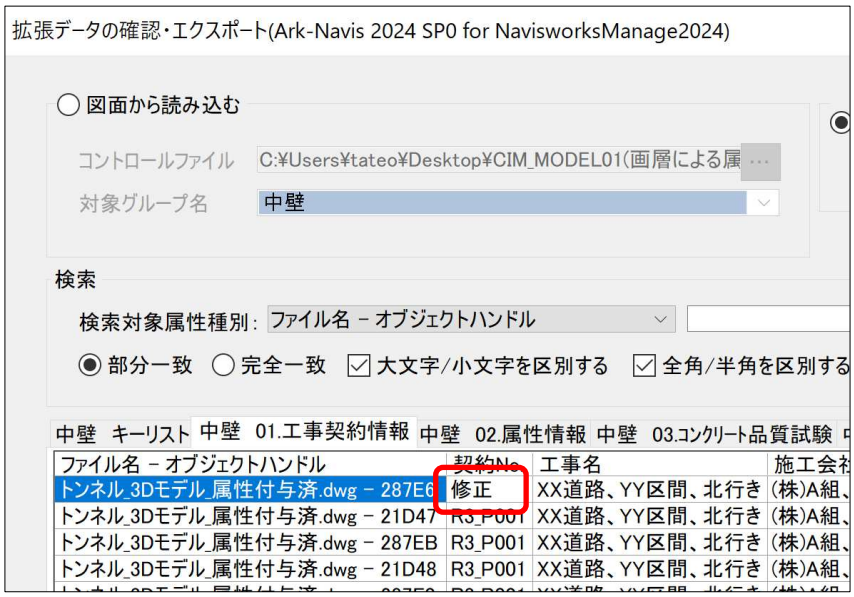




2） 基本操作：修正、修正の完了

Enterキー、マウスカーソルを他のセルに移動してマウス左ボタンあるいは右ボタンクリックで修正が完了します。

右ボタンをクリックすると連続して修正可能です。



3)　リスト確認のロック機能（５．５．リスト確認、注２）と同一内容です）

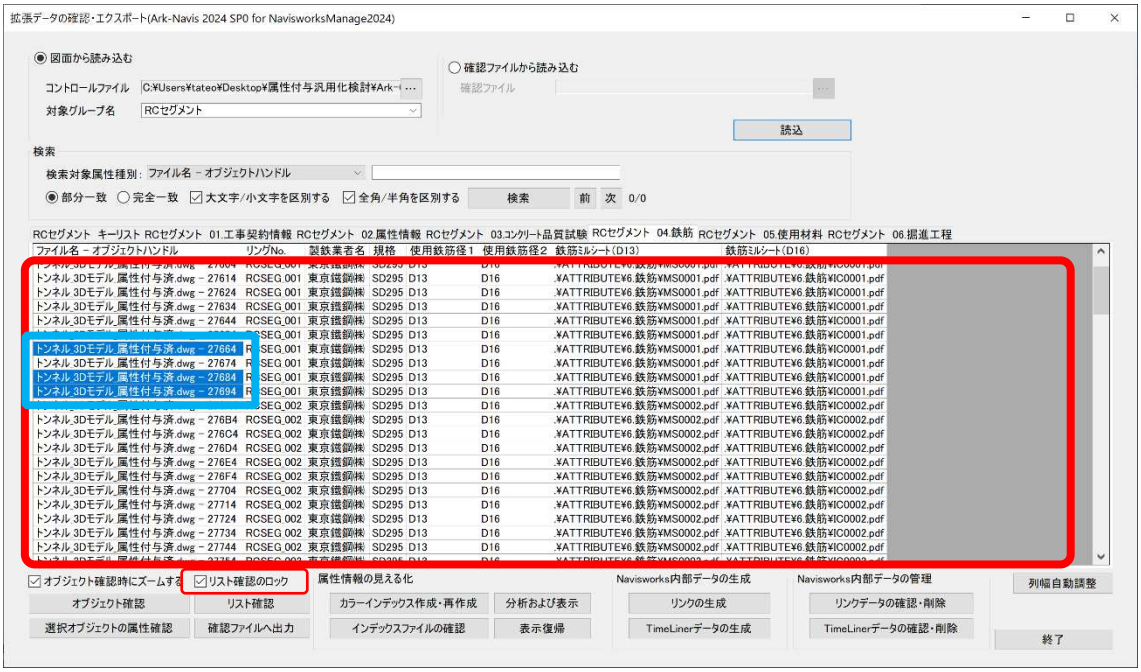
「リスト確認のロック機能」にチェックを付けるとNavisworksでのオブジェクト選択状態がリスト確認ボタンを押下しなくても拡張データ表示画面に反映されるようになります（選択ツリー、選択セットによる選択含む）。

同時に拡張データ表示画面でのオブジェクト選択にロックがかかり、

[　　]内のどのセルをクリックしても

[　　]内の選択状態は変わりません

と言った動作になります（下図）。



ARK NAVISでの属性修正機能追加に伴い、Navisworksであらかじめ修正（あるいは確認）対象のオブジェクトを選択ツリー、選択セット等で特定しておき、順次修正（あるいは確認）作業を行なうことを想定したものです。

「リスト確認のロック機能」にチェックを付けると拡張データ表示画面でのオブジェクト選択状態はNavisworksの３D画面での選択状態に切り替わります。

拡張データ表示画面での選択状態のままロックしたい場合、いったん「オブジェクト確認」ボタンを押下して上記画面の選択状態をNavisworksの選択状態に反映させてからロックにチェックを入れてください。

4)　ショートカットキーについて

以下のショートカットキーが使用可能です。

・ctrl+c　　：コピー

・ctrl+v　　：貼付け

・ctrl+x　　：切り取り

・ctrl+u　　：元に戻す（50アクションまで）

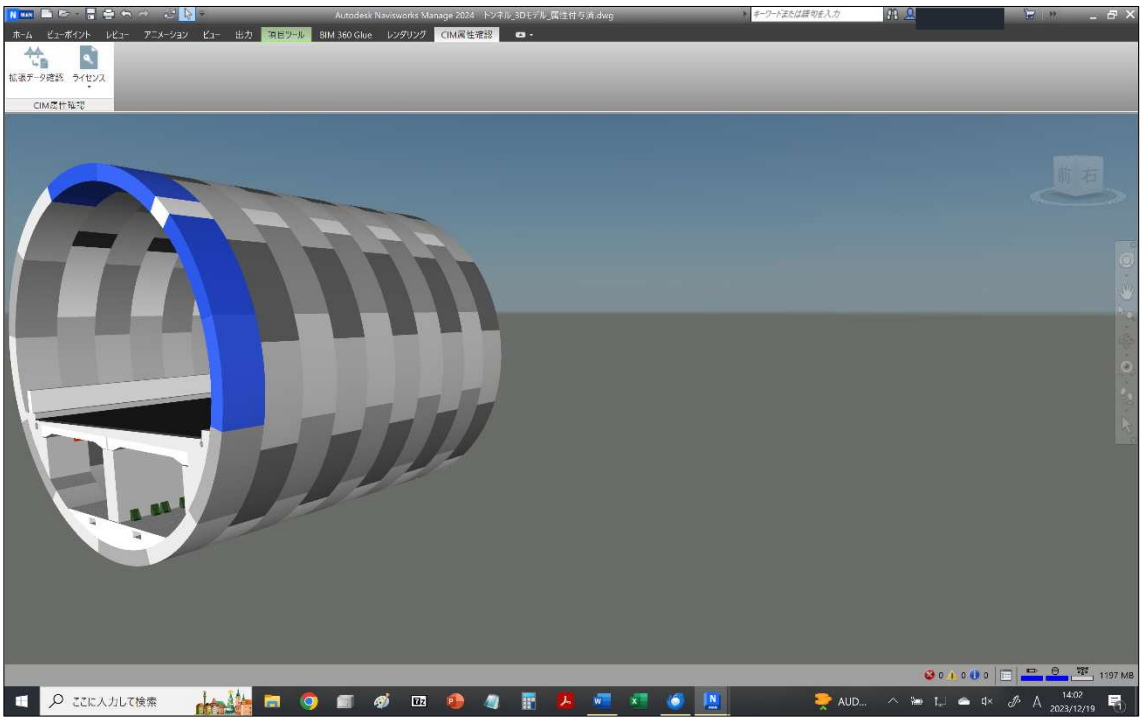
・ctrl+shift+p　　：「リスト確認のロック」機能

選択状態のオブジェクトすべてについて、修正対象として選択されたセルと同一の列すべての値をコピーまたは切り取りされた値に変更する。

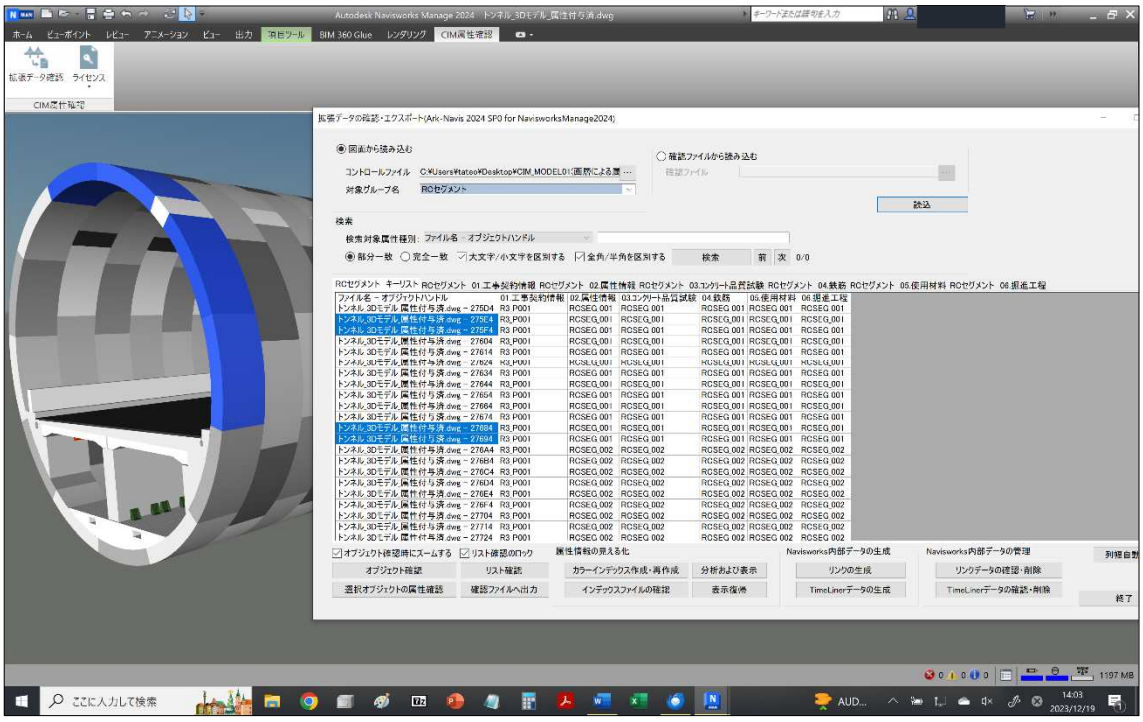
（次項使用例をご参考お願い致します）

5)　ctrl+shift+p の使用例

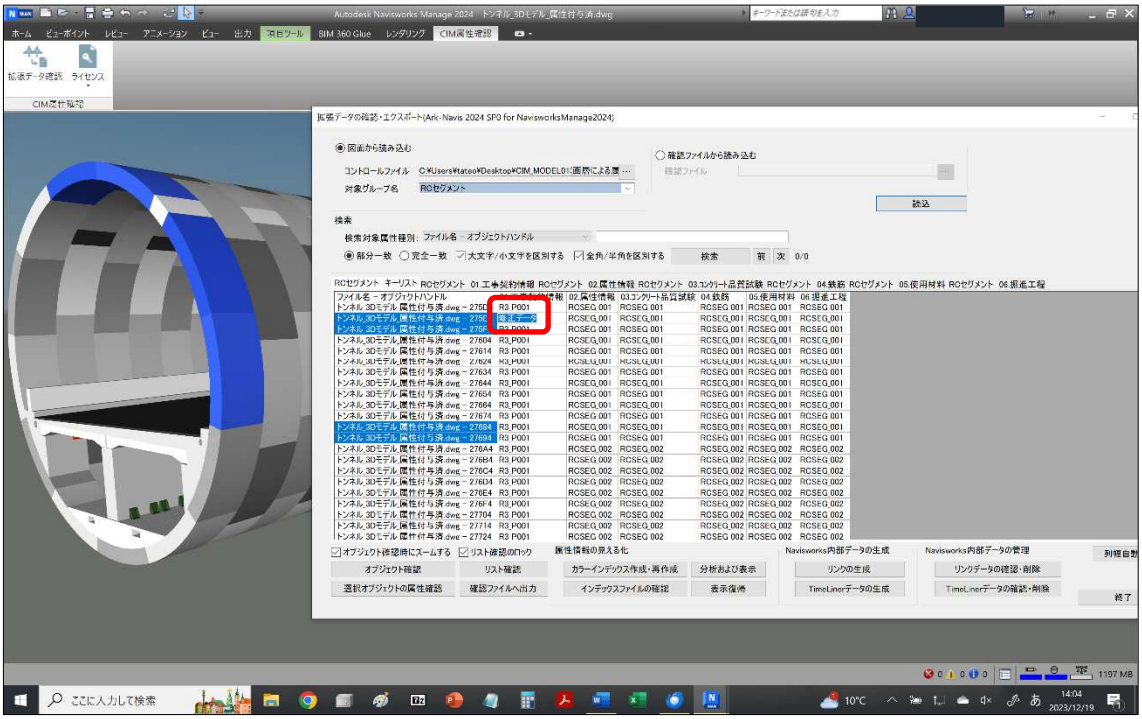
① 選択ツリー、選択セット等を使用して対象のオブジェクトを選択します。



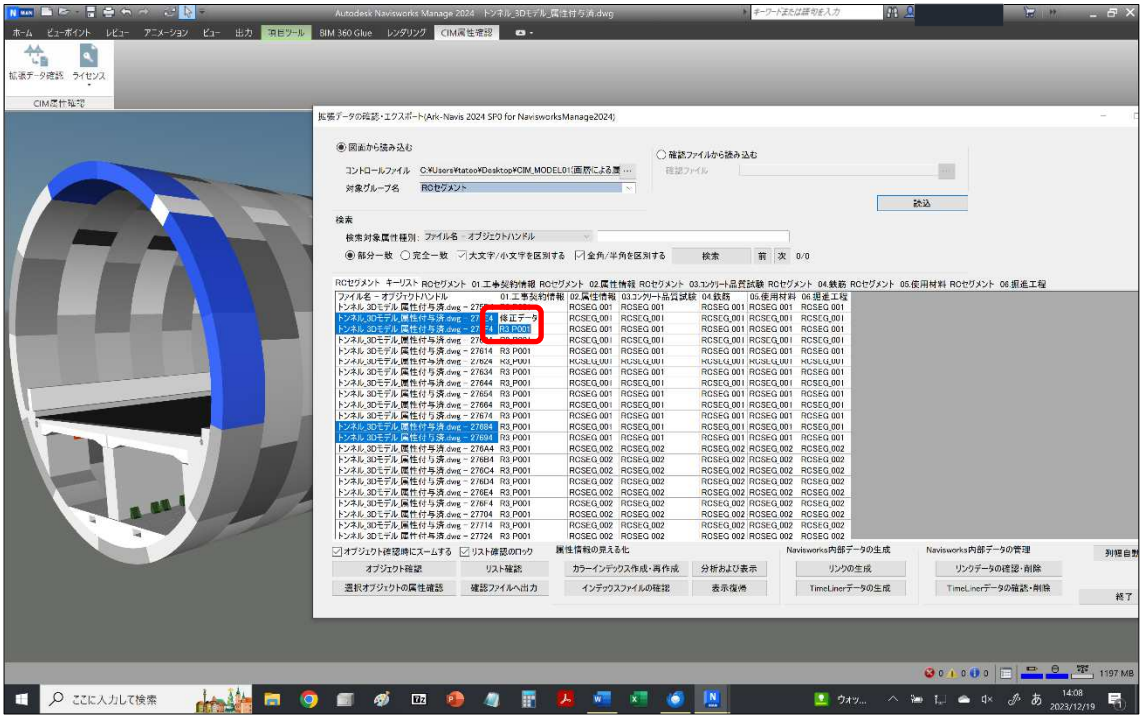
② 「リスト確認のロック」にチェックを付けます。
オブジェクト選択状態が拡張データ表示画面に反映されます。



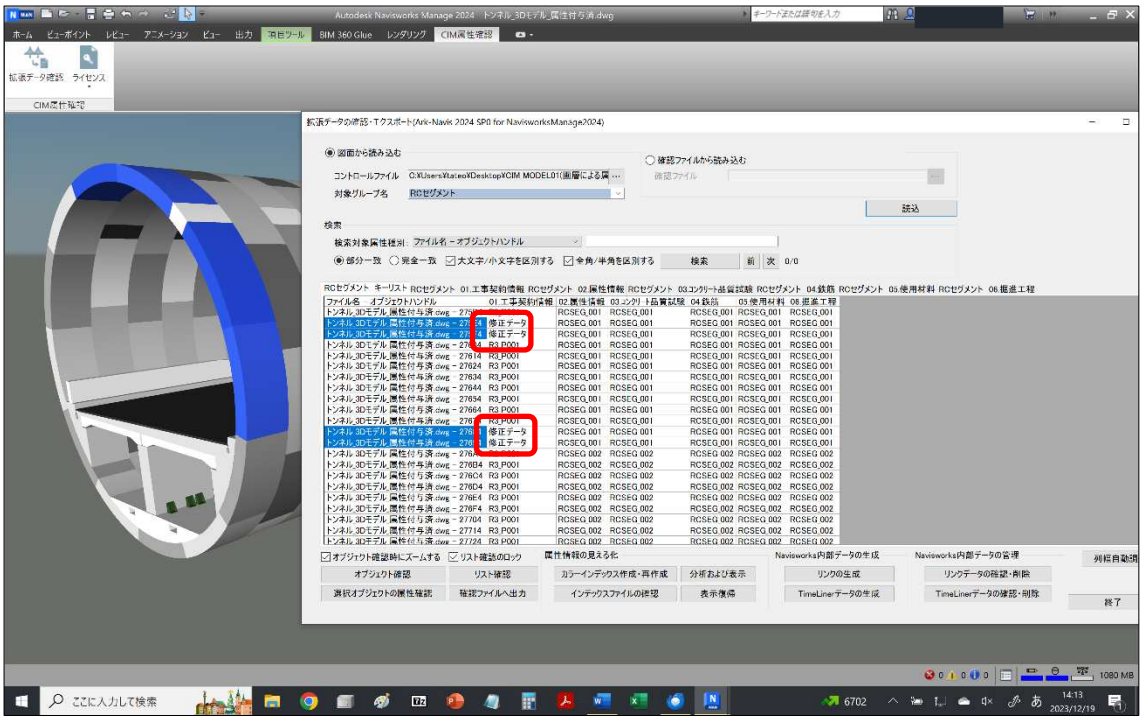
③ データを修正し、ctrl+c でクリップボードにコピーします。



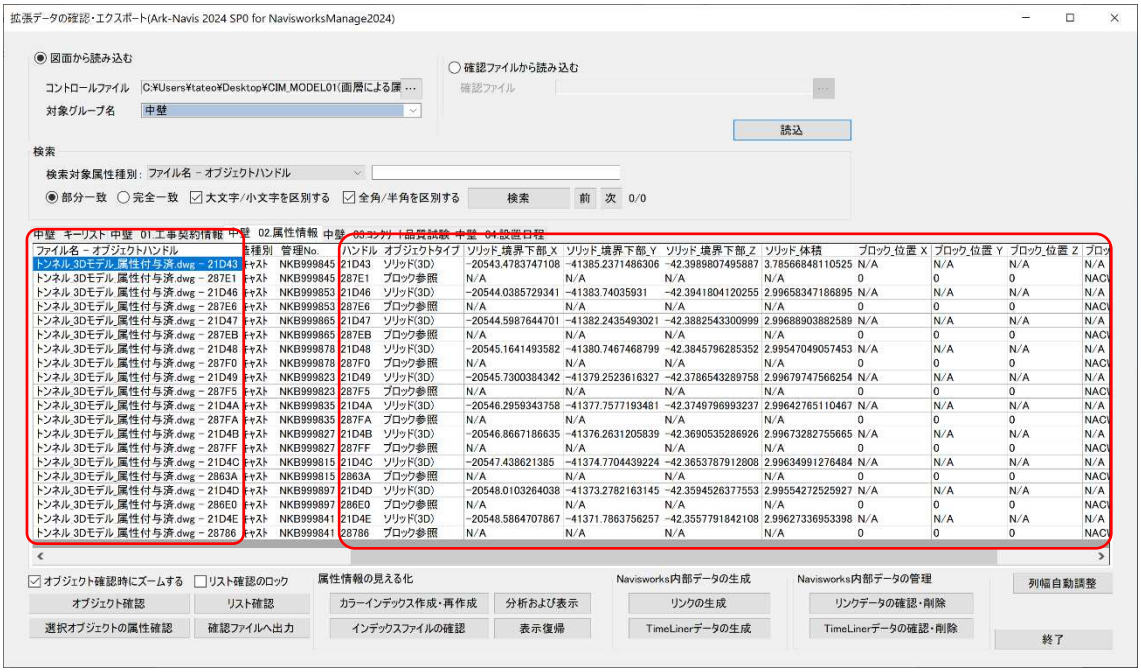
④ 別のセルを右クリックします。



⑤ ctrl+shift+p を実行します。
選択されているオブジェクトすべての値が変わります。

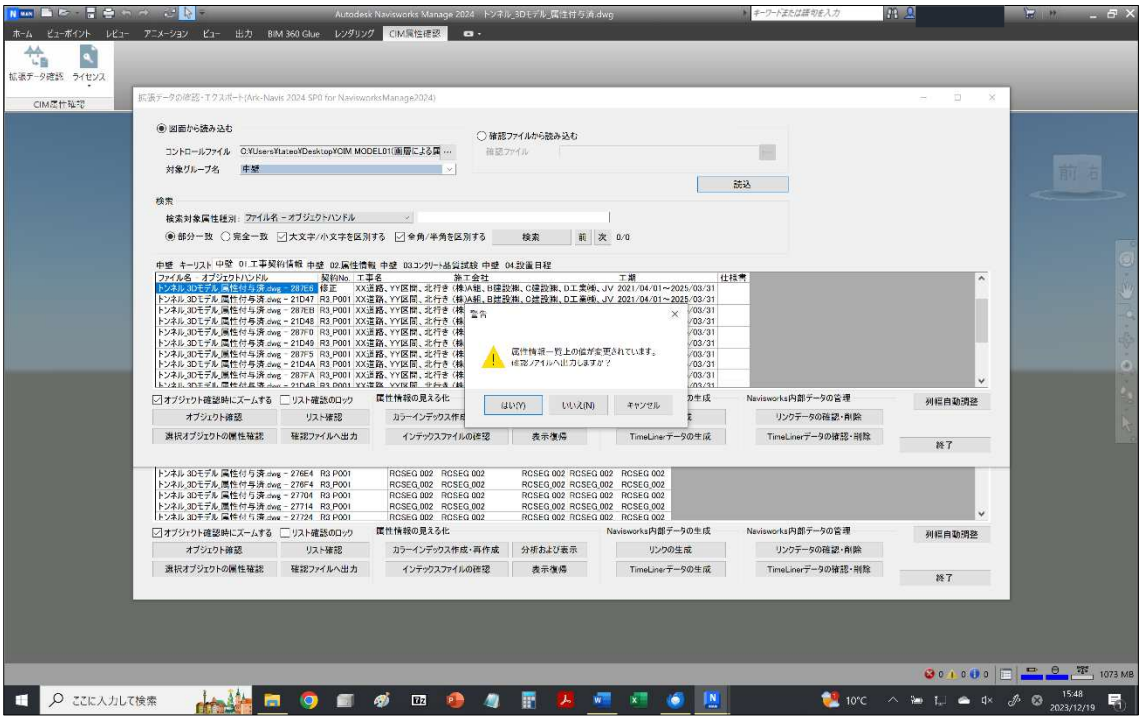


⑥ 修正できない項目
ファイル名-オブジェクトハンドルと自動プロパティは修正できません。
下図は例として中壁の場合で、赤枠内は修正できません。



14.3. 修正内容の確認ファイルへの保管

修正内容の確認ファイルへの保管
属性情報が修正された場合、拡張データ表示画面を閉じる際に下図のメッセージが表示されます。
必要に応じて確認ファイルに出力してください。



Navisworks Manageの機能としてDWGあるいはNWD内の属性情報を書き換えできないので、確認ファイル（Excelファイル）に変更した属性情報を保管します。
確認ファイルの作成先フォルダー・名前は自動で決められます。７項を参照お願いいたします。
その後のARK NAVISでの作業時は、属性情報を図面（DWG・NWD）、確認ファイルのどちらから取得するのがよいか、適切な判断が必要です。
確認ファイルを使ってARK CIVILで属性の再付与を行なうことにより、ARK NAVISでの変更内容をDWG（あるいはIFC）に反映することができます。
ARK CIVIL操作説明書の「５．２．プロパティセット定義：ARK NAVISでの修正反映コマンド」をご参照ください。

ARK NAVIS

2021年10月 第 1 版発行
2022年 1月 第 2 版発行（SP1）
2022年 4月 第 3 版発行（SP2）
2022年11月 第 4 版発行（2023）
2022年12月 第 5 版発行（2023SP1）
2024年 2月 第 6 版発行（2024）
2024年11月 第 7 版発行（2025）
2025年11月 第 8 版発行（2026）

株式会社コンピュータシステム研究所
イノベーション事業部
BIM コンサルティング営業部
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町 6-1
http://www.cstnet.co.jp